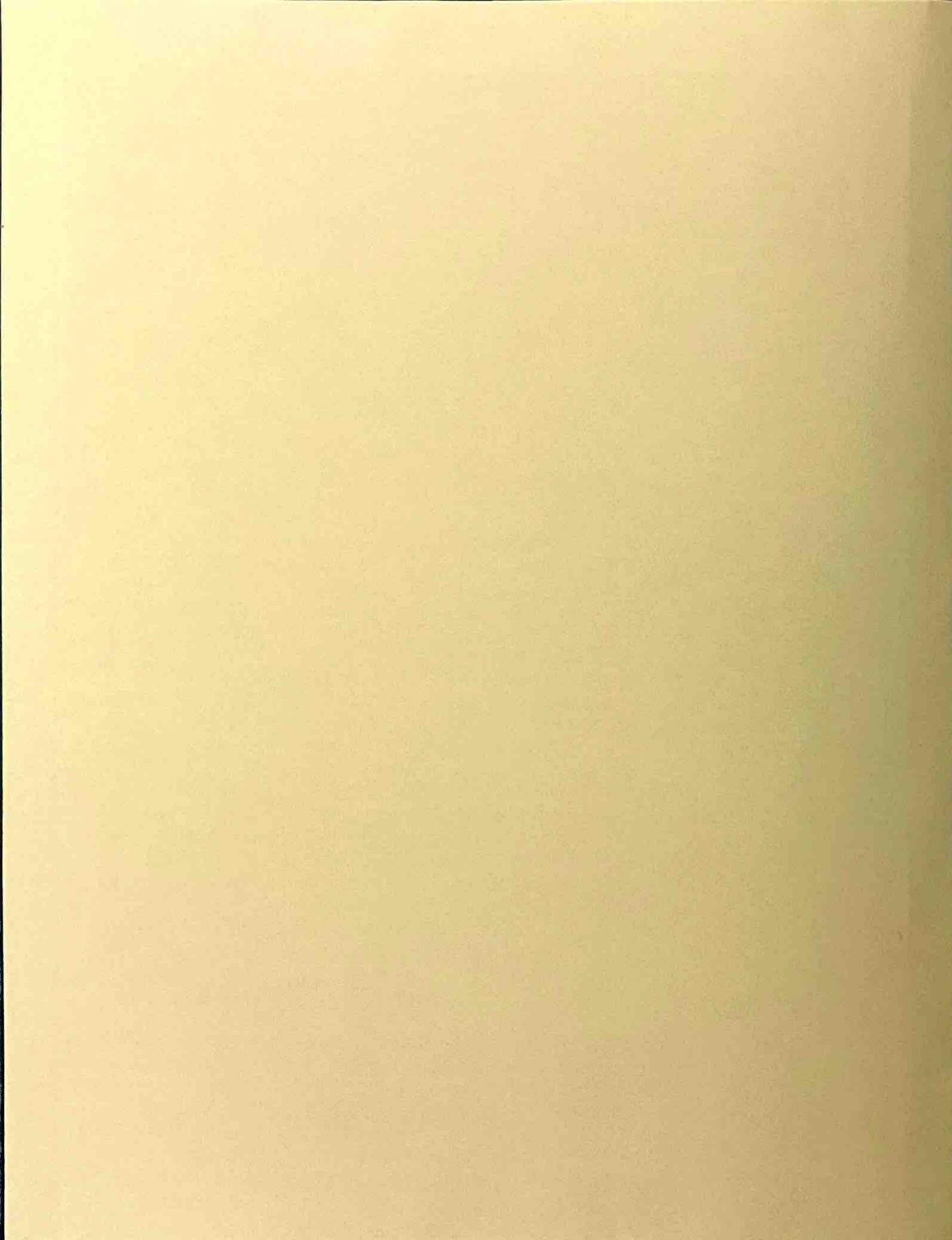


We  
Do  
Next  
Challenge

**40**th ANNIVERSARY  
SAGAMIHARA JC



**We**

**Do**

**Next**

**Challenge**

**40**<sup>th</sup> ANNIVERSARY  
SAGAMIHARA JC





入会認承証

第三六号

相模原青年会議所

貴青年会議所を日本青年  
会議所正会員として入会を  
認承致します

一九六六年四月二日

社団法人日本青年会議所

会頭 辻兵吉

## JC宣言

日本の青年会議所は  
混沌という未知の可能性を切り拓き  
個人の自立性と社会の公共性が生き生きと協和する  
確かな時代を築くために  
率先して行動することを宣言する

## 綱 領

われわれJAYCEEは  
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し  
志を同じうする者、相集い、力を合わせ  
青年としての  
英知と勇気と情熱をもって  
明るい豊かな社会を築き上げよう

## The Creed Of Junior Chamber International

We Believe : That faith in God gives meaning  
and purpos to human life ;  
That the brotherhood of man  
transcends the sovereignty of nations ;  
That economic justice can best be won  
by free of men through free enterprise ;  
That government should be of laws  
rather than of men ;  
That earth's great treasure lies in  
human personality ; and  
that service to humanity is the best  
work of life

我々はかく信じる：  
「信仰は人生に意義と目的を与え  
人類の同胞愛は国家主権を超越し  
正しい経済の発展は  
自由社会を通じて最もよく達成され  
政治は人によって左右されず法によって  
運営されるものであり  
人間の個性はこの世の至宝であり  
人類への奉仕が人生最善の仕事である」

# 社団法人 相模原青年会議所 40周年記念誌

## 目 次

相模原青年会議所認承証 .....	1
JC宣言文・JICクリード・綱領 .....	2
空から見る相模原市の移り変わり .....	4
JC NOW .....	6
ごあいさつ .....	12
祝辞 .....	14
JC HISTORY .....	20
40周年記念座談会（創立期） .....	48
40周年記念座談会（市長対談） .....	52
40周年記念座談会（出向に対して） .....	56
相模原市の概要 .....	59
現役・OB交流名簿 .....	61

# 空から見る相模原の移りかわり



80年代 相模原駅周辺



80年代 橋本駅周辺



90年代 相模原駅周辺



90年代 橋本駅周辺



現在の相模原駅周辺



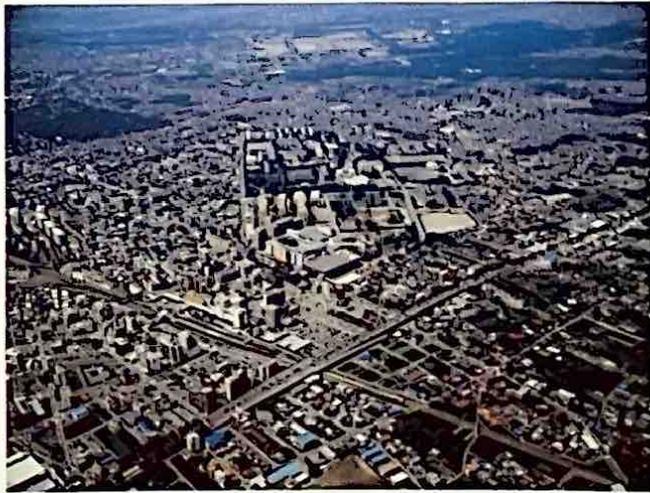
現在の橋本駅周辺



80年代 相模大野駅周辺



80年代 相模川周辺



90年代 相模大野駅周辺



90年代 相模川周辺



現在の相模大野駅周辺



現在の相模川周辺

相模原市提供

2005  
平成17年

# 第40代 井口 学

地域のために 人のために 未来のために We Do Next Challenge

日本JC 目覚めよ！“JC New Generation”  
会頭 高竹 和明 (倉敷)



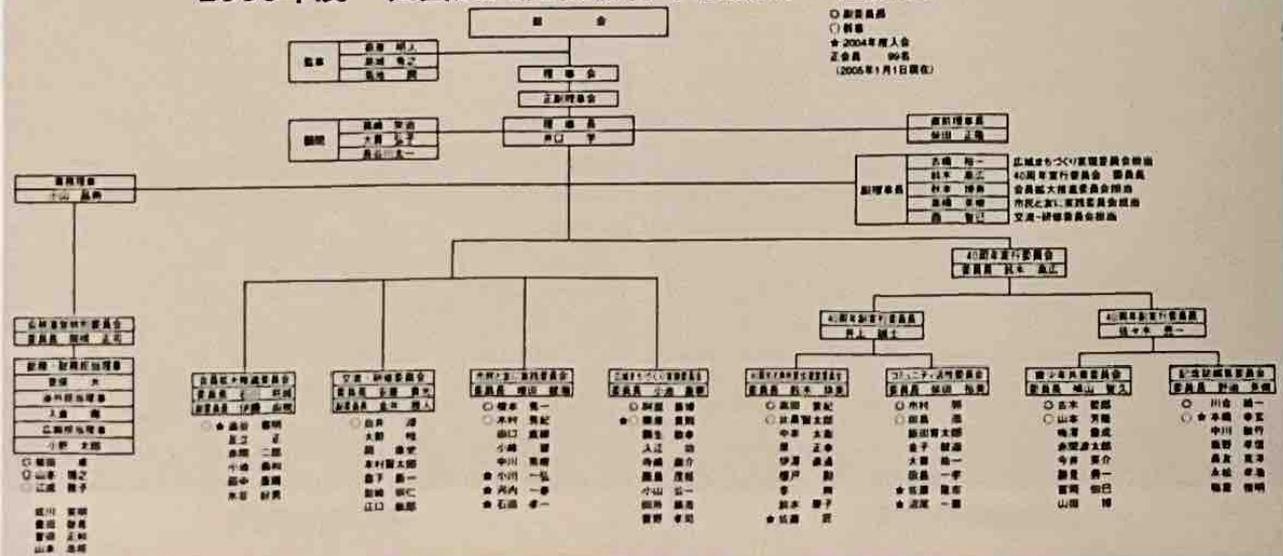
主な事業紹介

- 1月例会 OB交流会
- 40周年記念式典／センチュリー相模大野
- 3月例会 相模原ロータリークラブ合同例会  
津久井JC合同例会  
第32回市民さくら祭りへの参画・リベンジ・ザ・ギネス 目指せ！2005人の空気椅子の実施  
(社)相模原青年会議所「メモリアルデー」の開催
- 5月例会 大人たちのKeep On Passion! 青島健太氏
- 7月例会 You are the hiro ～君たちが主役～  
現代の子供たちは今、そして私達が今やらなければいけない事は 講師：水谷 修 氏  
タイムカプセル開封式
- 9月例会 相模原エココミュニティ祭り／麻溝公園
- 10月例会 相模原から日本を変える！？構造改革特区例会  
献血推進運動の実施

## 2005年度 (社)相模原青年会議所 出向者名簿

●(社)日本青年会議所 規則委員会	委員 古橋 裕一 委員 橋本 英樹	21世紀行動プラン実践委員会	委員 一憲 博和 委員 介明之 弘 委員 泰子 紀則 委員 郎 晴喜
●日中間関係委員会	委員 古橋 裕一	●情報ネットワーク委員会	委員 秀重 善義 委員 英憲 秀一 委員 一弘 秀貴 委員 賢康 一
●関東地区協議会	委員 古橋 裕一	●会員大会運営委員会	委員 本池 部池 委員 井谷 城川 委員 内貫 村原 委員 嘉中 尾
●161ネットワーク委員会	委員 柴田 正隆	●事務局	委員 榎小 阿小 委員 今澁 高小 委員 河大 木栗 委員 比田 沼
●神奈川ブロック協議会	議長 柴田 正隆 正副会長 柴森 秋菊 ・会員会議所連絡会議 委員 小井 江伊川 ・会員会議所連絡会議 委員 長 井 江伊川 委員 長 井 江伊川 委員 長 井 江伊川 委員 長 井 江伊川	●事務局長	委員 榎小 阿小 委員 今澁 高小 委員 河大 木栗 委員 比田 沼
●人間力研修委員会	委員 古橋 裕一		委員 榎小 阿小 委員 今澁 高小 委員 河大 木栗 委員 比田 沼

## 2005年度 社団法人相模原青年会議所 組織図





新年通常総会



8月例会理事選挙



3月第一例会（相模原ロータリークラブ合同例会）



3月17日（木）社団法人相模原青年会議所の設立の際にお世話になった相模原ロータリークラブと合同で例会を行いました。



5月第一例会（講師例会）

大人たちの Keep on Passion!

講師 スポーツライター 青島健太氏



3月第二例会（津久井JC合同例会）

3月24日（木）社団法人津久井青年会議所と合同で例会を行いました。行政面での合併の件も踏まえて、両青年会議所メンバーが、将来の方向性や問題点、合併についてのメリット、デメリットを話し合い、双方の立場で意見交換をしました。



3LOM合同事業



第32回市民さくらまつり



訪中ミッション 6月20日（月）～23日（木）

日本JCの事業、訪中ミッションに参加致しました。人民大会堂では日本で3都市（仙台、金沢、相模原）の青年会議所が選ばれ相模原JCは無錫市青年連合会と交流、友好の為の調印式を行いました。

# 40周年記念式典

2005年2月11日(金)

式典 17:30~19:00

祝賀会 19:10~20:45

ホテルセンチュリー相模大野 フェニックスI、II、III

担当 40周年式典祝賀会運営委員会



和やかな大懇親会風景



オープニングを飾った弥栄高校箏曲部の皆様



40周年実行委員長挨拶



韓国釜山から駆けつけた姉妹JC・釜山海雲台JCのメンバー



心ひとつに記念式典を終えた現役メンバー



共に40周年を祝うOBの皆様

40周年にあたる節目の年に、委員会スローガン「錦上添花」のもと、おもてなしの心と創始の信念を確認する気持ちをもって式典及び祝賀会を催しました。先輩諸氏との関わりの中で、これまでの相模原青年会議所の歴史を再認識するとともに、今後の事業をより実り豊かなものにするべく決意を新たにしました記念式典になりました。

## OB交流会



(社)相模原青年会議所が40周年という節目の年の年頭に、創始の精神を思い返し、創立時から多くのメンバーによる活動の連鎖があることに感謝すべく交流会を開催致しました。この交流会から現役OBが一体となって40周年をスタートし、現役メンバーと先輩方の交流により今後の事業の共有と連携をはかるための第一歩となるよう実施致しました。

2005年1月15日(土) 18:00~20:00

ベルヴィ相模原 2F

担当 コミュニティ活性委員会

## (社)相模原青年会議所メモリアルデー



相模原青年会議所は、1965年に発足し1966年4月2日正式に、日本青年会議所正会員として入会を認められました。

40周年にあたる本年は、その記念すべき日を「相模原JCメモリアルデー」として、当日開催の市民さくらまつりに合わせ、JCルームで(社)相模原青年会議所の活動の歩みを写真パネル展示や保管映像によって先輩方に振り返っていただくと同時に、現役メンバーと先輩方との交流を図りました。

2005年4月 2日(土) 13:00~16:30 JCルーム

担当 40周年式典祝賀会運営委員会

## タイムカプセル開封式・交流会



(社)相模原青年会議所30周年の記念事業として1995年7月8日(土)に相模原麻溝公園にて第1回わんぱくグリーンフェスティバルどろんこの里元年が開催されました。それを機に青少年関連の事業を多岐にわたり実施しておりますが、青年会議所の事業の中でも青少年事業は対外的なもので、年ごとのカラーを出しながら、趣向を凝らした事業を展開し、広く市民の方々に親しまれています。その原点でもある第1回目では、タイムカプセルの埋設を行っており、十年後にあたる本年に開封し、当時の参加者で、現在20歳になる子どもたちに郵送すると約束がされていました。その約束を守る為、又事業を開催した先輩たちの意思を引き継ぐ為の開封式と子ども達へのハガキの郵送を行ない、懇親会を実施致しました。

2005年7月7日(木) 19:30~ メイプル 屋上ビアガーデン

担当 40周年式典祝賀会運営委員会

# 40周年記念事業

## 7月例会

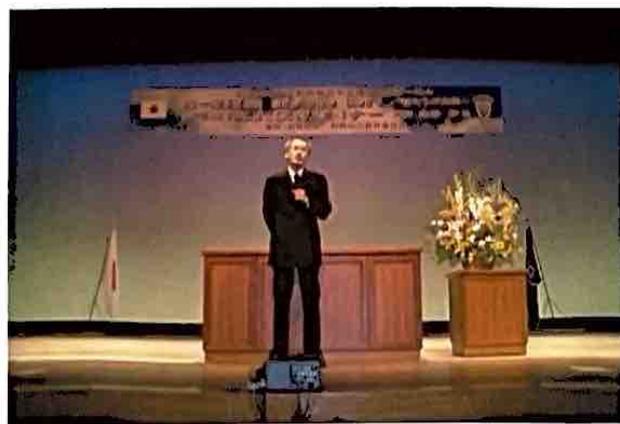
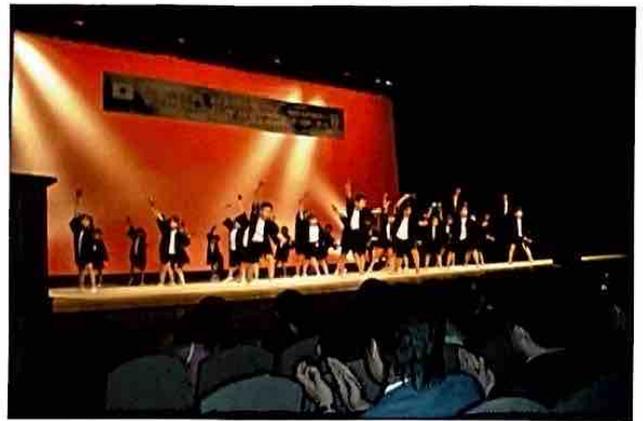
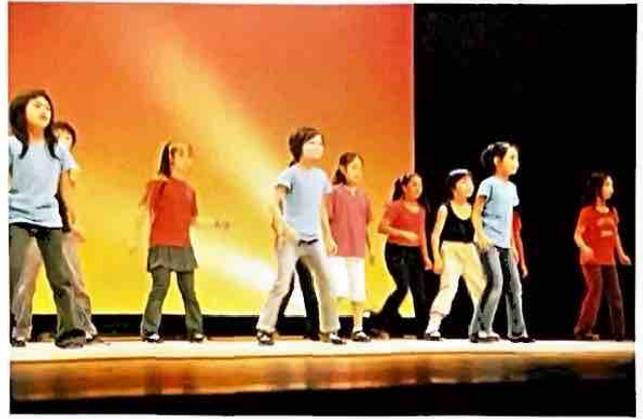
第一部 子ども達は今、そして私達がやるべき事は 講師 水谷 修氏

第二部 You are the hero 君達が主役

2005年7月27日(水) 18:00～21:00

相模原市民会館大ホール

担当 青少年共育委員会



(社)相模原青年会議所40周年という節目の年に、「子ども達の育成」をテーマに掲げ、記念となる青少年事業を開催致しました。昨今、未成年者の犯罪件数は増加傾向にあります。その責任の一端は私達大人にもあるのではないのでしょうか。現在大人、子どもにかかわらず、良い事と悪い事といった当たり前の区別がつかず、損得感情において行動する傾向が広く見受けられます。その様な社会の中で生活している子どもたちは本来、人間に備わるべき価値基準が損なわれているのではないのでしょうか。私達大人は、日頃から一人でも多くの豊かな心を持った子ども達を育成する事を考えていますが、その前に大人としてどう在るべきかを再度検証しなければならない時にきています。「頑張ればきっと未来の夢を描ける」が基本コンセプトの当事業を通じて、努力をすれば出来るのだという「達成感」を子ども達が感じてくれたとしたら幸いです。また、子どもだけでなく大人の方々にも頑張れば褒める、褒められるという当たり前の価値基準を再度思い出していただき、共に子ども達を育てているという認識を持つ契機になればとの思いで、この事業を開催いたしました。

9月例会  
相模原エココミュニティ祭り

2005年9月17日(水) 10:00~16:00

麻溝公園噴水広場

担当 コミュニティ活性委員会



現在のまちづくりには、地域コミュニティの活性化とネットワークの構築が大切ではないでしょうか。なぜなら、地域コミュニティの脆弱化によって、人と人の繋がりが希薄になり、無関心が様々な悲劇を引き起こしているからです。このため、地域住民や他のコミュニティとの関わりを増やし、地域全体・まち全体の繋がりを強化することで、お互いを育みあえる、人に優しいまちづくりが可能になると考えています。

地域コミュニティを通じて「まち」全体で一つの目標に取り組み、「明るい豊かな未来の実現」の一助となるようなネットワークや人間関係を構築することを目指すとともに、この事業を通して日常生活の中で、環境のために出来ることを参加した市民の方に知っていただき、環境問題と地域コミュニティを身近に感じてもらうと当事業を開催致しました。

2005年9月17日(土) 10:00~16:00

麻溝公園 水の広場・緑の広場

担当 コミュニティ活性委員会

## ご挨拶

社団法人相模原青年会議所  
第40代理事長



井口 学

1965年9月に仮称相模原青年会議所として誕生いたしました私ども社団法人相模原青年会議所は、創立時に多大なるご尽力をいただきました社団法人川崎青年会議所をはじめとする多くの関係者の皆様、行政・関係諸団体の皆様、多くの市民・市民団体の皆様からの深いご支援・ご協力のお陰をもちまして、ここに創立40周年を迎えることができました。創立時から現在までの相模原青年会議所全ての会員を代表いたしまして、深く感謝御礼を申し上げます。

また、相模原青年会議所は、創立時から現在までの全ての会員の一つひとつの努力の積み重ねにより、40年という活動の歴史と伝統を刻むことができました。改めまして相模原青年会議所の全ての先輩諸氏に深い敬意を表します。

相模原市は、相模原青年会議所が創立した当時、その人口は16万人程でしたが、40周年を迎える現在では、人口62万人へと発展を遂げました。日本有数の都市である相模原市は、自然と都市が調和した住みやすさから、市民のまちに対する愛着心は高く、市民の平均年齢は39歳と若く活みなぎるまちです。しかし、一方では市民の市政参画意識が高いとは言えない課題もあります。現在の青年会議所活動の理想は、地域主権型社会の創造です。私たちの相模原市を私たち市民の手によって創りあげていく、市民一人ひとりの想いを市民の手によって形にすることができるような市民参加型のまちを創りあげていくことが理想です。

私たち社団法人相模原青年会議所は、この理想に向かって、その活動の視点を地域振興的な観点から、市民協働によるまちづくりへと移しつつ、いま一度、この地域のために、この地域の市民のために、そしてそれぞれの未来のために行動するという、相模原青年会議所の創始気既に思いを巡らせ、全ての会員の意思を集め、この相模原市のために、これからも活動に邁進してまいります。

## ご挨拶

社団法人相模原青年会議所  
初代理事長



矢島 治

社団法人相模原青年会議所創立40周年を心よりお祝い申し上げます。40年と聞き本当に40年も経ったのかとびっくり致しました。

思い出してみれば、私が39歳になる頃、当時すでに相模原ロータリークラブに入会していた土屋章会員より相模原市にJCを設立してくれないかとの話があり、私は、医者ですのでJCについては、名も知らなければ、何をしているのかも知りませんでした。「こういう組織だよ、近く東京JCの木下さんが話をしてくれるから」ということで設立することを承諾しました。

その後創立総会、認承証伝達式迄の経過についてはすでに何回もお話したり、挨拶等で述べておりますので、省略致しますが「志を同じうするもの相集い、力を合わせ…」という綱領のとおり、スポンサーの川崎JCの多くのメンバーの方々の御指導でどうにか創立ができました。40年経ちました今でも忘れることはありません。深く感謝しております。ありがとうございました。

その後、私は40歳となり、数ヶ月で退会致しましたが、その設立の苦勞が以後の私の人生において大きな助けとなり相模原市の医師会会長を務めさせていただきました。

最近及び40年目の本年のJC活動について、直前理事長や本年度理事長のお話を聞いて年々すばらしい活動をしていることを知って、大変嬉しく思っております。特に第40代理事長の「地域のために、人のために、未来のために、We Do Next Challenge」のスローガンは真に素晴らしく、活動としての「市民協働によるまちづくり」の実行を是非貫徹させてください。このスローガンは、小川相模原市長も大いにお喜びになると思います。私も健康でいる限り、市民の健康保持推進に力の限り努力します。最後に、JC諸君のますますのご活躍とご健勝を祈念してご挨拶とさせていただきます。

相模原青年会議所  
シニアクラブ会長代行



中村 宣勝

シニアクラブの宮崎直道会長が本年3月21日心不全の為突然逝去されました。改めてご冥福をお祈り致しますとともに宮崎会長の長年のご尽力に対し敬意と感謝を申し上げます。創立会員の中で一番の若年の私が代行を務めるため、一言挨拶をさせていただきます。まず創立以来40年、その間志のある若者により引き継がれ今日に至りました青年会議所運動に対しご支援ご協力頂きました市民の皆様をはじめ関係者各位に御礼を申し上げます。「柳緑花紅」は宮崎会長が好んで使った四文字熟語だとお聞きしました。それは（自然はいつも利になかったあるがままの姿をしているということ。ごく自然で当たり前がよい）ということだと思います。創立30年の宮崎会長の祝辞の中に「華美に流れぬ着実な運営と活動」と説いております。この清新を運営の原則として頂ければ幸いです。若さゆえの華美、軽率を避け、必要なことを淡々と行動に移すことこそより広い市民から共感を得る秘訣、近道のように思います。井口理事長さんのお話では現在の会員数は神奈川ブロック内で2番目に多い会員数だそうです。誠に喜ばしい次第です。よい街にはよい青年会議所がある。現役の時によく耳にした言葉です。相模原市も創立時の人口約16万人が現在62万人を超え、津久井4町との合併も現実のものとなっております。21世紀を背負う皆様の限りない情熱と冷静な発想、着実な行動力で新生相模原市の創造の一翼を担うことを切望致します。また（社）相模原青年会議所の繁栄が永遠に続く努力をお願い致します。

## 祝 辞

神奈川県知事

松沢 成文



社団法人相模原青年会議所が、創立40周年を迎えられましたことを、心からお喜び申し上げます。

貴会議所は、1965年の創立以来、「地域のために 人のために 未来のために」をモットーに、研修や交流事業、地域貢献活動などのさまざまな活動に取り組み、相模原市の発展に大きく貢献してこられました。歴代の理事長や役員の方々、そして会員の皆様方の長年にわたるご尽力に深く敬意を表します。

本年4月の「相模原市民まつり」では、「リベンジ・ザ・ギネス『目指せ2005人の空気いす』」を主催され、惜しくも新記録樹立には至りませんでした。多くの市民の方々が協力し合い、一体となって記録にチャレンジされました。また、市町村合併や献血推進、あるいは青少年育成などの今日的な課題や地道な活動にも着実に取り組んでおられます。こうした活動に、市民の方々と協働しながら取り組まれることは、個性豊かな地域づくりを進め、生き生きとした地域社会を築いていくために、大いに役立つものと思います。皆様方の今後の取組みに大きな期待をしているところであります。

県といたしましても、県政運営の総合的指針である「神奈川力構想・プロジェクト51」に基づき、活力ある地域社会と生きがいのあるくらしの創造を目指して、全力を挙げて取り組んでおります。皆様方におかれましては、今後とも県政の推進にご理解とお力添えを賜り、共に力を合わせて、活力ある神奈川をつくることができますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

創立40周年を契機とした、社団法人相模原青年会議所のさらなるご発展と、会員の皆様のますますのご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

## (社) 相模原青年会議所創立 40周年を祝して

相模原市長

小川 勇夫



社団法人相模原青年会議所が創立40周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。また、これまでの実績をまとめられ、更なる発展のために記念誌を刊行されますことは、誠に意義深いこととお喜び申し上げます。

貴会議所におかれましては昭和40年の発足以来、強い信念と大きな理想のもと、多彩な活動を通して地域振興、青少年の健全育成など明るい豊かなまちづくりの実現に向け、ご尽力いただいておりますことに心から敬意を表する次第です。

特に、昭和49年、市制20周年を記念して始められた「相模原市民まつり」におきましては、当初からまつり実行委員会において中心的な役割を担われ、市民まつりも今や「市民による、市民のためのまつり」として本市を代表するまでになりました。また、本年6月には中国の青年組織である中華全国青年連合会と友好合意書を締結し、日中友好交流の新たな第一歩を踏み出されるとともに、本市の友好都市である中国・無錫市におきましても青年との民間交流を展開されるなど、両市の友好促進にご尽力を賜りました。

さらに本市市民と町田市民との協働による「境川クリーンアップ作戦」では、両市市民の中心となって、環境保全と地域コミュニティの醸成に大きな成果を上げてこられました。これらはひとえに歴代理事長をはじめとする役員の方々の御努力と会員皆様方の熱意の賜と深く感謝申し上げます。

さて、本市は昨年、市制50周年という節目の年を迎えました。そして本年を新たなスタートの年と位置付け、「新たな舞台へ 未来を築くまちづくり」をテーマとして市民と行政の揺るぎないパートナーシップのもと、一人ひとりが未来に希望を持ち、いきいきと活動ができる、魅力と活気あふれる相模原の実現に向け、全力を挙げて取り組んでいきたいと考えております。

貴会議所におかれましては、郷土相模原をさらに魅力ある“ふるさと”として、次代に引き継ぐため一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴会議所のますますの御発展と会員の皆様の御健勝を心からお祈り申し上げます。お祝いのことばとさせていただきます。

## 祝 辞

相模原市議会議長

今井 満



創立40周年を、心からお祝い申し上げます。

相模原青年会議所は、昭和40年の創立以来、「明るい豊かな社会」の実現を目指して、若い力を結集し、地域に根ざした様々な活動を積極的に展開され、輝かしい実績と成果をあげてこられました。これもひとえに歴代会長をはじめ、会員皆様方のたゆまぬ御努力と、郷土相模原を愛する熱意のたまものと、心より敬意を表します。

近年、情報化や都市化の進展に伴い、市民生活もスピード化が進むとともに、ますます個性化・多様化し、人と人の触れ合いも大変希薄になってきているように思います。こうした中、貴青年会議所におかれましては、崇高な理想のもとに、社会への奉仕、国際的友情、個人の修練を目指して、産業、文化、経済、人づくりなどの各般にわたり、事業を推進するとともに「わんぱくグリーンフェスティバル」や「オープンミュージアム」の開催、「市民まつり」の企画・運営、そして会員自らの資質向上のための各種研修会の実施など、様々な事業活動を通じて、人と人との交流の機会の創出や青少年の育成、地域のネットワークづくりに積極的に取り組んでいただいておりますことを、大変心強く感じております。

市議会といたしましても、市民の皆様との揺るぎないパートナーシップのもと、豊かな市民生活の実現と次世代に誇れるまちづくりを推進するため、引き続き努力してまいります所存です。

貴青年会議所におかれましても、どうか40周年を新たな契機とされ、若さあふれる行動力と英知によりまして、「心豊かなふるさとさがみはら」の実現と、「次世代を担う人材の育成」に向け、より一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴青年会議所のますますの御発展と、会員皆様方の御活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

## 祝 辞

相模原商工会議所  
会 頭

河本 洋次



社団法人相模原青年会議所が創立40周年を迎えられ、ここに「相模原青年会議所40周年記念誌」を刊行されますことは、真に意義深く心よりお祝いを申し上げます。

相模原青年会議所は1965年の創立以来40余年、「明るい豊かな社会の実現」を同じ理想とし、明るく住みよいまちづくりのため多大な貢献を果たしてこられましたことに対しまして、歴代の理事長をはじめ、次代の担い手たる皆様方には深甚なる敬意を表する次第であります。

日本の社会経済は、高度経済成長による住環境やライフ・消費スタイルの変貌を経て、その後のバブル経済崩壊による長期デフレ、株価や地価の暴落等景気後退による厳しい局面を迎えながらも、最近では、金融業界の再編や特殊法人の独立法人化等が進められ、また、国内景気は持続的な回復に展開し、ようやく明るい兆しが見えてきましたが、地域経済や中小企業においては、なお、相当数の企業が不況から抜けきれないのが実態であり、解決しなければならない問題が山積しております。

相模原市では、さがみはら産業振興ビジョンにより、当所・産業界・市民・学界等が一体となり、豊かな生活文化を創生する産業をめざしております。商工会議所としましても、新しい産業や雇用を創出するための環境を醸成し、会員同士の多様なネットワークによる事業展開を図って参りたいと考えております。

安心・安全、豊かで住みよい街づくりのためには、皆様が社会のリーダーとして修練、奉仕、友情の3信条のもと、新時代を切り開いていただくことを節にご期待申し上げます。

最後に、社団法人相模原青年会議所が今後ますますご発展されますことと、皆様方のご健康、ご多幸を祈念いたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。

社団法人日本青年会議所  
会 頭



高竹 和明

社団法人相模原青年会議所は1965年、全国316番目のLOMとして認証されて以来、脈々と諸先輩から受け継がれた精神をもって、率先して地域発展のためにJC運動を展開されてこられました。そして本年、創立40周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げますと共に、これまでの歴史を築いてこられました諸先輩、関係各位の皆様のご尽力に深く敬意を表します。

本年度、社団法人日本青年会議所はバランス型信頼社会をキーワードに新たな日本の夢を創るべく運動を推進しております。

青年会議所メンバーは、昭和40年生まれ以降の俗に言う「新人類」世代で構成する時代に入りました。この旧態の価値観を身につけていない、新しい感性や価値観を持つ世代が国を預かり、いよいよ社会参加しようと胎動を始めています。新たな夢に向かうには、「JC New Generation」が、「変革すること」と「守るべきもの」を見極める感性を磨くことが大切です。そしてまず、我々が夢を持つ、持つことの出来る、「意気と力」を身につけなければなりません。それぞれのバックボーンをしっかりと認識し誇りをもって生きることのできる社会を創造し、日本人が持っている歴史・伝統・文化・文明を鑑み、感性を研ぎ澄まし、歴史の延長線がどこまでも続くための1点を担う覚悟をもって、皆が信頼しあえる進化と継承のバランス型信頼社会の実現に向け、ともに行動し、社会をリードする運動を進めて行きましょう。

今後も、社団法人相模原青年会議所の皆様、「進化」と「継承」の感性と「意気と力」をもち、様々な事業に取り組むことによって、新たな信頼社会を創って行くことを心より祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

社団法人日本青年会議所  
関東地区協議会会長



平 将明

社会を動かす力 - 青年会議所 -

社団法人相模原青年会議所の皆様、創立40周年誠におめでとうございます。

本年は井口学理事長のもと、「地域のため 人のため 未来のため We Do Next Challenge」のスローガンのもと、まさに「社会を動かすJC」として活躍されていることと存じます。

21世紀は、私たちが子供の頃に思い描いていた夢の未来とは似ても似つかない混沌の世界になってしまいました。国際社会に目を向ければ、果てしなく続く遺恨の連鎖、戦争とテロの世紀です。国内社会に目を向ければ、政治の墮落、官僚の機能不全、経済の停滞、人心の荒廃といった状況です。

明治維新、終戦に匹敵する国難を抱えた今日、国の大きな方向転換をすることができるのは、「政」でも「官」でもなく、「民」であり、その中でも進むべき国家や社会のビジョンを掲げ多くのNPOや市民と共に運動できる唯一の団体が私たち青年会議所です。そのためには政策提言から政策実現へ、リングの外でファイティングポーズを構える評論家から、リングに上がって戦う闘士への転換が私たちにも求められています。

JCが社会から今ほど求められている時代はありません。同時に今ほど私たちの存在意義が問われている時もないのです。共に同志として、社会を動かす力 - 青年会議所 - を実現し、21世紀の誇りある国家再生に向けて力を合わせて行動していきましょう。相模原青年会議所の皆様の今後更なる活躍を期待しています。

社団法人日本青年会議所  
関東地区神奈川ブロック  
協議会  
第38代会長



三荒 弘道

社団法人相模原青年会議所の皆様、創立40周年誠におめでとうございます。神奈川ブロック協議会1500名のメンバーを代表し心よりお祝い申し上げます。

1965年の設立以来、現在の社団法人相模原青年会議所のまちづくり運動を今日まで築かれてこられた歴代理事長を初めと致します多くの諸先輩、現役諸兄のご尽力に深く敬意を表させていただきます。

さて、国・地方における借金の清算や少子高齢化社会を踏まえ、大きな改革の風が社会に吹いている昨今、各地青年会議所運動にもその影響が多にあることは間違いない事実であります。だからこそ戦後の焼け野原に灯された小さなまちづくりの志が、瞬く間に全国に拡がり地域の篝火となっていくJC運動創始の理念を私たちはあらためて認識をしなくてはなりません。「地域主権の時代」・「改革の時代」と言われて久しい今こそ、21世紀に生きる私たち青年が、まちの未来に大きな夢を掲げ、それに挑んで行動し、時代の先駆けになる事こそが、まちの未来に対する責任と考えます。青年会議所が築いて来た「このまちのために…」というパブリック精神は「不変」であると確信すると共に、21世紀こそまさにJAYCEEが飛躍する時代なのであります。21世紀…。市民が主役の時代が到来します。中央集権型社会システムの歯車が咬み合わなくなろうとしている現在、「みんなのことはみんなで」という責任意識を持った市民が、このまちの未来を光り輝くものとする時代だと実感しています。「個人」ってなんだろう？「公」ってなんだろう？21世紀社会はまさに「個と公」が調和するべき時代です。それは地域を育む私たち1人1人に突きつけられた大きな問題なのです。公事を他人事ですまらず、常に自分自身の問題に置き換え、例えば小さな行動にすぎなくても、その行動貫く意志(will)が今こそ必要だと考えます。

井口 学理事長率いる社団法人相模原青年会議所の皆様が、創立40周年を契機として、相模原の輝く未来を創造すべくご活躍下さいますことをご期待申し上げますとともに、神奈川ブロック協議会の諸活動に対しましても、更なるご尽力を賜りますこと、心よりお願い申し上げます。最後に社団法人相模原青年会議所の愈々のご発展をご祈念申し上げ、お祝いの挨拶とさせていただきます。

社団法人川崎青年会議所  
理事長



竹本 典秀

社団法人相模原青年会議所が本年、創立40周年を迎えられましたこと、まことにありがとうございます。社団法人川崎青年会議所のメンバーを代表いたしまして心よりお慶び申し上げます。

今日までの社団法人相模原青年会議所の隆盛を築かれた諸先輩方に心から敬意を表しますとともに、社団法人相模原青年会議所の明日を担う現役のメンバーの皆様方にも、熱いエールを送らせて頂きたいと思います。私ども社団法人川崎青年会議所にとりまして、社団法人相模原青年会議所は唯一の親子LOMであります。このことは、私どもにとりまして誇りであり、かけがえのないものであります。これからも、お互いに強い絆を持ってまちづくりの運動に邁進して参りましょう。

1965年相模原青年会議所発足の際に、私ども社団法人川崎青年会議所の第15代理事長である齊藤文夫先輩が、スポンサーLOMの代表として相模原青年会議所初代理事長の矢島治先輩をはじめとする諸先輩方と設立に際しての会合のため、砂埃舞う国道16号の砂利道を通り、何度もお互いの地に足を運んだと聞き及んでいます。青年会議所を生み出すには、まちづくりに対する熱く揺るぎない情熱が必要であると考えますが、当時の先輩方には、誰にも負けないパイオニア精神があり、それが今日隆盛を築いている社団法人相模原青年会議所の基礎として受け継がれているものと思います。

今日のような変動の大きな時代にあっては、社会との関わりを自覚し、自ら考え、判断し、責任を持った行動をとれる自立型人材が必要不可欠であります。青年会議所全体の会員数が減少している中、社団法人相模原青年会議所がその存在意義を内外に知らせ、会員数を着実に増やしていることを鑑みますと、諸先輩方が今日まで築いてこられた基礎にあると感じてやみません。

本年、井口学理事長率いられます社団法人相模原青年会議所の皆様、「～地域のために 人のために 未来のために～」のスローガンのもと、40年の資産を生かしながら新たな一歩を踏み出すことに、我々もとても良い刺激を受けています。最後に、社団法人相模原青年会議所の先輩諸兄ならびに現役メンバーの皆様の方々の今後の更なるご健勝とご発展を祈念いたし、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

相模原 JC [SAGAMIHARA JC] 創立 40 周年을 祝賀합니다.

상모원[相模原]JC 會員 여러분 반갑습니다  
今年 상모원[相模原]JC 의 創立 40 周年을 맞이한 것을  
海雲臺 JC 會員 모두의 마음을 모아  
慶祝드립니다.

지금의 상모원[相模原]JC 가 있기까지 기초(基礎)를  
쌓아주신 先輩님과 애정과 헌신으로 다들어주신  
역대(歷代) 理事長님과 상모원[相模原]JC 의 역사(歷史)를  
함께 하고있는 모든회원 여러분께  
경의(敬意)를 표합니다.

서로의 끝없는 노력과 서로를 이해하고 아끼는 마음으로  
상모원[相模原]JC 의 발전(發展)된 위상(位相)과 저력(底力)을  
확인할 수 있는 자리에 초대(招待)받은 것을 해운대  
[海雲臺]JC 전(全)회원(會員)을 대표(代表)하여 감사드리며  
자랑스럽게 생각 합니다.

40 년전통(傳統)의 상모원[相模原]JC 와 해운대[海雲臺]JC 가  
자매의 정(情)으로 나눈 발자취는 해운대[海雲臺]JC 28 년의  
또 하나의 전통(傳統)이며 이 전통(傳統)을 이어주신 상모원  
[相模原]JC 모든분께 또 한번 감사드립니다.

“지역(地域)을 위하여 인간(人)을 위하여 미래(未來)를  
위하여”라는 훌륭한 슬로건으로 2005 년(年) 창립(創立)  
40 주년(周年)을 훌륭하게 이끌어 나갈 Manabu Iguchi [井口  
學]이사장(理事長)님께 축하(祝賀)와 성원(聲援)을 보냅니다.

존경(尊敬)하는 상모원[相模原]JC 회원(會員) 여러분

Manabu Iguchi [井口 學]이사장(理事長)님의 슬로건처럼  
지역(地域)을 위하고 지역민(地域民)을 비롯한 모든 인간  
(人)을 사랑하며 지역(地域)과 나아가 조국(祖國)의 미래  
(未來)를 위하여 도전하고

노력하며 헌신하는 자기(自己)개발(開發)은 JC 회원으로서의  
존재(存在)가치이며 오늘날의 JC 를 한층더 질높은 청년단체  
(青年團體)로 탈바꿈 하게 한다는 점을 직시(直視)하고 모든  
회원(會員)이 한마음이

되어 선배(先輩)님들이 맘으로 쌓아올린 위대한 40 년 전통  
(傳統)의 역사(歷史)를 영원히 보전(保全)하고 발전(發展)  
시킬 것을 믿습니다

우리 해운대[海雲臺]JC 및 한국(韓國)JC 의 모든회원은  
“조국(祖國)의 미래(未來) 청년(青年)의 책임(責任)”이라는  
대(大)명제(命題) 아래 자기개발(自己開發)과 지역(地域)사업  
(事業)에 헌신하며 인재(人材) 배출에 힘쓰고 국가(國家)발전  
(發展)에 기초를 다지는데 주력(主力)하고 있습니다

여러분 역시 여러분 조국의 미래를 밝힐 등불이 될것이라고  
생각하며 상모원[相模原]JC 와 해운대[海雲臺]JC 가 서로의  
위치(位置)에서 없어서는 안될 일등(一等) 청년(青年)단체  
(團體)가 되는 것이 미래(未來)의 한국(韓國)과 일본(日本)이  
세계(世界)에서 일등(一等)국가(國家)가 되는 기초(基礎)라고  
생각합니다.

우리 서로 선의(善意)의 경쟁(競爭)으로 서로의 조국(祖國)을  
책임(責任)질 수 있는 청년(青年)이  
됩니다.

앞으로 상모원[相模原]JC 회원 여러분의 무궁(無窮)한  
활약(活躍)과 발전(發展)을 기원(祈願)하며 서로의 교류  
(交流)가 서로에게 유익(有益)하길 바라며 창립(創立) 40 주년  
(周年)행사(行事)를 훌륭하게

준비(準備)하신 모든분의 노고(勞苦)에 경의(敬意)를 표하며  
상모원[相模原]JC 와 모든(全)회원(會員)의 앞날에 큰(大)  
영광(榮光)과 행운(幸運)이 함께하기를 바랍니다

감사합니다.

社団法人 釜山 海雲臺 青年會議所  
[JCI KOREA · BUSAN Haoundae ]  
2005 年 29 代 會長 朴 鎭 範



社団法人 釜山 海雲臺 青年會議所  
會長

## PARK HO BEAM

相模原JC創立40周年을 祝賀します。

相模原JCの皆様こんにちは。

今年、相模原JCが創立40周年を迎えた事を海雲台  
JC會員一同心を込めてお祝い申し上げます。

今日の相模原JCが出来るまでの基礎を積み上げて  
下さった先輩達、愛情と献身で繋いで下さった歴  
代の理事長様、そして相模原JCの歴史を共に歩む  
全ての會員の皆様にご敬意を表します。

40年の伝統を持つ相模原JCと海雲台JCが姉妹の  
情で分かち合った足跡は海雲台JC、28年のもう一  
つの伝統であり、この伝統を続けて下さった相模原  
JC全ての皆様方にあらためて感謝申し上げます。

「地域の為に、人間の為に、未来の為に」という  
素晴らしいスローガンで、2005年創立40周年を導  
いて行かれる井口学理事長にもお祝いと声援を贈  
ります。このスローガンのように地域の為、地域  
の方々をはじめあらゆる人々を愛し、地域と歩み、  
国の未来のために挑戦し努力し、献身する自己開  
発はJC會員としての存在価値であり、今のJCを  
一層質の高い青年団体に生まれ変わることを直視  
し、全ての會員がひとつの心になり、先輩達が汗  
で導いた40年の伝統と歴史を永遠に保全し、発展  
させていく事と信じます。

私達、海雲台JC並びに韓国JCの全ての會員は  
「祖国の未来、青年の責任」という大命題のもと  
に自己開発と地域事業に力を注ぎ、人材の輩出と  
国家発展の基礎を固める事を主力にしています。  
皆様方も祖国の未来を導いて行く方々であると思  
います。相模原JCと海雲台JCがお互いの位置か  
ら考え、なくてはならない第一の青年団体になる  
ことが、未来の韓国と日本が世界で第一の国家と  
なる基礎だと考えます。私達は互いに善意の競争  
によりお互いの国を背負っていけるような青年に  
なりましょう。

今後も相模原JC會員の皆様が無窮な活動と発展を  
祈願し、お互いの交流が有益であることを願ひ、  
創立40周年の準備をなされた皆様の努力に敬意を  
表し、相模原JCと全ての會員の前途に大きな栄光  
と幸運が共にある事を願ひます。有難うございま  
した。

# JC HISTORY

1965~  
1966  
昭和40~41年

初代 矢島 治



主な事業紹介

創立総会の開催  
認承証伝達式の挙行  
(認承番号316号)  
学童通学路標識の寄贈  
「からだの不自由な子に大きな夢を」  
ドリームカード発行  
JCデー特別講演会の開催

社会情勢

2月 全日空、ボーイング727型機、羽田沖墜落  
3月 カナダ太平洋航空DC8機、羽田着陸失敗  
3月 BOAC、ボーイング707型機、富士山中に墜落  
6月 ザ・ビートルズ東京公演  
8月 東京山谷で労働者暴動事件  
12月 衆院、黒い霧事件で解散

1967  
昭和42年

第2代 土屋 定



主な事業紹介

市議会議員を囲む会の開催  
県議会議員を囲む会の開催  
JCデー「交通戦争から市民を守ろう」の実施調査  
神奈川ブロック、ジャガイモ大会の主管  
広報紙「柴胡」第1号発刊

社会情勢

1月 第31回衆議院選挙 自民支持率50%割る  
4月 東京都知事に美濃部亮吉当選  
6月 第3次中東戦争勃発  
9月 「サーベイヤー5号」月面軟着陸に成功  
10月 吉田茂死去、戦後初の国葬  
11月 第2次羽田事件

1968  
昭和43年

第3代 飯田 亨



主な事業紹介

JCデー「市教育長を囲む会」の開催  
「市立青年の家」立看板寄贈  
一般公開例会、交通法令講習会の開催  
ジャガイモゴルフ、家族会、  
ボーリング大会などの開催

社会情勢

2月 金喜老事件発生  
4月 米黒人指導者、キング牧師暗殺  
6月 ロバートケネディ大統領候補暗殺  
6月 東大紛争始まる、安田講堂事件  
7月 第8回参議院選挙、タレント候補大量当選  
10月 川端康成、ノーベル文学賞受賞  
12月 3億円事件発生

1969

昭和44年

## 第4代 古藤 友昭



主な事業紹介

神奈川ブロック協議会主管  
市長を囲む会「本年度の市政について」開催  
JCデー「青少年問題」市民討論会の開催  
防衛問題アンケートの実施  
社会協力委員会の発足

社会情勢

1月 東大「安田講堂」の封鎖解除  
3月 中ソ両軍、ダマンスキー島で武力衝突  
5月 東名高速道路全面開通  
7月 「アポロ11号」人類初の月面着陸に成功  
11月 赤軍派を大菩薩峠で53人逮捕  
12月 第32回総選挙、社会党大敗

1970

昭和45年

## 第5代 宮崎 直道(故)



主な事業紹介

JCデー「70年代の教育について」市民集会の開催  
講師-無着成恭氏  
市内中、高校生作文募集、発表会開催  
創立5周年記念例会の開催  
「日本の安全と防衛」市民アンケート  
一般公開例会「献血問題について」開催

社会情勢

2月 東大宇宙研、人工衛星「おおすみ」打上成功  
3月 日本万国博、大阪で開催  
3月 「新日本製鉄」発足  
3月 日航機「よど号ハイジャック事件」  
8月 東京銀座「歩行者天国」始まる  
11月 三島由紀夫、自衛隊乱入、割腹自殺

1971

昭和46年

## 第6代 内田 寛



主な事業紹介

第1回チャリティーショー劇団四季「ハムレット」開催  
相模原青年会議所、定款及び書式の整備  
「公害」についての討論会の実施  
「横浜線複線化」問題についての例会開催

社会情勢

5月 「連続女性誘かい殺人事件」大久保清逮捕  
7月 環境庁発足  
7月 自衛隊機、全日空機と衝突墜落  
9月 天皇、皇后両陛下、ヨーロッパ親善訪問へ出発  
12月 インド、パキスタン戦争勃発  
12月 ベトナム戦争「北爆」開始

# JC HISTORY

1972

昭和47年

第7代 宮崎 昇



主な事業紹介

日本ボーイスカウト相模原第7団、発団式の挙行  
青年の船「あすの青年号」に参画及び報告会の開催  
第2回チャリティーショー劇団四季「オンデイス」上演  
市議会議長を囲む討論会の開催  
一般公開「経営セミナー」の実施  
(講師-牛尾治朗氏)

社会情勢

1月 グアム島で横井庄一元日本兵を発見  
2月 第11回冬季オリンピック札幌大会開催  
2月 浅間山荘事件  
3月 奈良県高松塚古墳に壁画発掘  
5月 沖縄返還沖縄県発足  
9月 田中首相、中国訪問、日本国交正常化  
10月 ジャイアントパンダ上野動物園へ来る

1973

昭和48年

第8代 山内 大



主な事業紹介

相模原模擬市議会の開催  
JCデー早起き野球大会の実施  
チャリティーボーリング、ゴルフ大会の開催  
韓国親善旅行の実施  
第3回チャリティーショー劇団四季「聞奏曲」実施

社会情勢

1月 北京に日本大使館開設  
3月 ベトナム戦争終結  
8月 金大中氏、東京で誘拐さる  
10月 第4次中東戦争起こる  
11月 熊本大洋デパート昼火事  
11月 トイレットペーパー買占め騒ぎ起こる

1974

昭和49年

第9代 川合 貞義



主な事業紹介

第1回市民さくらまつりへの参画  
交通キャンペーン、交通安全教室の実施  
「柴胡」市民版発行  
第4回チャリティーショー「ねむの木の詩」開催  
第1回ビジネス放談会実施

社会情勢

3月 フィリピン・ルバング島、小野田元陸軍少尉救出  
5月 堀江健一「マーメイド3世号」で世界一周成功  
8月 ニクソン大統領、ウォーターゲート事件で辞任  
8月 丸の内三菱重工ビル爆発事件  
10月 巨人軍、長島茂雄選手、現役引退  
11月 田中元首相、金脈問題で辞任表明

1975

昭和50年

第10代 大貫 一男



主な事業紹介

創立10周年記念式典の開催  
第2回市民若葉まつりへの参画  
JC文化講座の開催  
(講師-無着成恭氏・西丸震哉氏)  
早起き野球大会の開催  
新入会員拡大の実施

社会情勢

2月 サッチャー女史、イギリス初の女性党首に  
5月 エリザベス女王来日  
6月 佐藤栄作元首相死去、国民葬  
7月 沖縄海洋博開催  
8月 興人倒産、負債1,500億円  
9月 天皇、皇后両陛下訪米

1976

昭和51年

第11代 中村 宣勝



主な事業紹介

社団法人資格の取得記念例会の開催  
解散総会および設立総会の開催  
JC文化講座「君は君、僕は僕、でも仲良く」(講師-茅誠司氏)  
JCルームの設置  
第3回市民さくらまつりへの参画  
JC市民寄席の開催  
出演-玉川勝太郎、松平容子、ターク夏美、鈴々舎馬風、  
大空あきら・たかし  
ごみ問題アンケートの実施と編集、配布  
早起き野球大会の実施 閉会式(講師-カイザー-田中氏)  
LDセミナー「自己を動かす力」(講師-大野勝憲氏)  
例会「若い人のこころ」(講師-石井儀氏)  
例会「企業人とJCメンバーとの対話集会」  
例会「アイデアと権利」(講師-西村豊親氏)

社会情勢

中国、周恩来死去  
政府、経済水域200海里条件付で認める  
ロッキード事件、田中角栄元首相逮捕  
ベトナム社会主義共和国成立  
中国、毛沢東主席死去  
昭和天皇在位50周年記念式典

1977

昭和52年

第12代 久保田 栄一



主な事業紹介

市民総合意識アンケートの実施  
第4回市民さくらまつりへの参画  
(仮装パレード、特設ステージ)  
第5回早起き野球大会の実施  
第6回チャリティーショー「ねむの木の詩が聞える」開催  
例会「40万人の連帯」パネルディスカッションの開催  
例会「あなたもすぐれたリーダーになれる」(講師-横山君、藤岡JC)  
例会「人前での話し方」(講師-早瀬市郎氏)  
例会「JCに期待する」(講師-相模原市長)  
例会「SUN計画と実践指導力」(講師-鈴木安之君、返子JC)  
例会「地方自治と人生」(講師-河津前市長)  
例会「200海里」(講師-杉山茂雄氏)  
例会「世論調査とは」(講師-杉山主任研究員、NHK)  
「ふるさと意識調査プリテスト」の実施

社会情勢

ロッキード事件公判開始  
カーター大統領就任  
インド、ガンジー首相失脚  
ベトナム社会主義共和国国連加盟  
巨人軍王貞治ホームラン世界記録達成  
カンボジア、ベトナムと断交、国境紛争激化

# JC HISTORY

1978

昭和53年

第13代 水谷 好佐



主な事業紹介

公開例会「ふるさとづくりを考える」パネル討論会  
 第5回市民さくらまつりへの参画(仮装パレード)  
 さくらまつりポスター展の開催  
 対話集会「僕と私とさくらまつり」  
 同伴例会「私と音楽」(講師-中村八大氏)  
 例会「JCマンの健康管理」(講師-河野友治氏)  
 例会「JCと人づくり」(講師-洞外文隆氏)  
 例会「模範結婚披露宴」開催  
 例会「相信の歩みと経営戦略」(講師-篠崎隆氏)  
 例会「アワールドの歩みと経営戦略」(講師-五十嵐山人氏)  
 例会「SUN計画について」(講師-水島君、平塚JC)  
 JCチャリティー映画会「君はいま光の中で」開催  
 早起き野球大会の実施「野球を通じての人づくり」  
 (講師-砂押氏)

社会情勢

伊東大島近海地震  
 成田空港開港  
 イギリスで初の試験管ベビー誕生  
 円高激化、180円割る  
 自民党初の総裁選で大平正芳当選

1979

昭和54年

第14代 菅沼 山一



主な事業紹介

新設ロム「大和青年会議所」拡大。  
 関東地区協「社会開発優秀賞」表彰。(市民さくらまつり)  
 JCデー文化講座「親の心と子の心」(講師-高田好胤氏)  
 第6回市民さくらまつりへの参画。  
 例会「JCは今何を考え、何をすべきか」納涼座禅会。  
 (社)相模原青年会議所入会手引書の作成。  
 例会「日本JCの体験を通じて…今後のJCのあり方」  
 (講師-鶴岡君)  
 例会「現代の中国、マスコミに報道されない中国」  
 (講師-菅沼正久氏)  
 例会「今後の市政を聞く」(講師-相模原市長)  
 例会「人間は思ったほど利孝でない」(講師-富谷竜一氏)

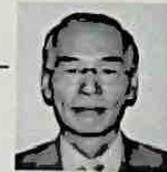
社会情勢

発の国公立大学共通一次学力試験実施  
 創価学会の池田大作会長引退  
 イラン革命  
 衆議院解散、第35回総選挙  
 第5回主要先進国首脳会談(サミット)東京で開催  
 朴韓国大統領暗殺される  
 大平内閣総辞職

1980

昭和55年

第15代 香川 正勝



主な事業紹介

15周年記念例会の開催  
 青少年健全育成相模原市民会議の開催  
 15周年記念経済人セミナー「80年代の経済動向を探る」  
 (講師-竹村健一氏)  
 大和JC合同例会「JCマンとしての心得」  
 (講師-洞外三浦JC O.B)  
 大和JC合同例会「政治と経済のかかわりについて」  
 (講師-戸沢政方氏)  
 例会「トップリーダーの行動のあり方」(講師-浜田三雄氏)  
 例会「明るい豊かな社会づくり」(講師-館盛相模原市長)  
 市民会議「リーダー育成」討論会の実施  
 相模原、大和、座間、3LOM合同例会の開催  
 第7回市民さくらまつりへの参画

社会情勢

米、駐イラン大使館人質救出奇襲作戦  
 大平正芳元首相死去  
 第36回衆院選、第12回参院選史上初のダブル選挙  
 第22回モスクワオリンピック開催  
 イラン・イラク戦争  
 巨人軍王貞治選手現役引退  
 東北・北陸地方、中部山岳地帯で記録的な大雪



1981

昭和56年

第16代 秋石 圭一



主な事業紹介

神奈川ブロック協議会会長出向。  
「日中友好青年の翼」の実施。  
(社)相模原青年会議所友好訪中団。  
JCデー第1回「さがみはら少年の主張」の開催。  
小冊子の作成。  
第8回市民さくらまつりへの参画。  
会員拡大、100名LOMの達成。  
大和JC合同例会の実施。(講師-麻生太郎氏、森輝彦君)  
LD道場「80年代に対応する指導者理念」(講師-小沢元会頭)  
少年野球教室の開催。  
JCデー文化講座(講師-西岡武夫代議士)  
例会「あなたの企業の悩みごと」グループ討議。  
経営スクール「生き残るための企業経営」(講師-長谷川記一氏)  
例会「家庭教育のあり方」(講師-浜田三雄、駒子夫妻)  
関東地区協議会会長公式訪問例会(100%出席)開催。

社会情勢

韓国大法院、金大中他12被告の上告棄却  
レーガン大統領就任  
神戸市主催ポートピア'81開催  
ポーランド、ワレサ連体議長来日  
ミッテラン、仏大統領就任  
エジプト、サダト大統領暗殺  
福井教授、ノーベル化学賞受賞

1982

昭和57年

第17代 飯淵 雅敏



主な事業紹介

韓国海雲台JCとの姉妹JCの締結  
津久井青年会議所の拡大  
第2回「さがみはら少年の主張」の開催  
第9回市民さくらまつりへの参画  
神奈川ブロックジャガイモ大会の開催  
例会「JCIとシスターJC」(講師-長尾源一氏)  
ソフトボール大会、クリスマス家族会の実施  
さくらまつり市民会議の開催  
例会「継承税制の問題」(講師-磯野雅一氏)  
例会「先代を超える強い社長になる法」(講師-森和夫氏)  
例会「相模原におけるコミュニティづくりを目指して」  
(講師-館盛相模原市長)  
例会「コミュニティ・リーダーを目指して」(講師-古川喜章氏)  
例会「JCメンバーが取り組める地域の教育活動」

社会情勢

日航機羽田空港着陸直前に墜落、死者24人  
ホテルニュージャパン火災、死者33人  
500円硬貨発行  
米でIBM産業スパイ事件  
東北新幹線開業  
九州北部豪雨、長崎県内で死者・行方不明者299人  
ソ連、ブレジネフ書記長死去、アンドロポフ書記長就任

1983

昭和58年

第18代 根本 忠幸(故)



主な事業紹介

相模原、大和、津久井、3LOM合同例会の開催  
教育問題市民集会「親と子の愛」開催(講師-徳積隆信氏)  
韓国海雲台JC、交流ソフトボール大会実施  
相互公式訪問の実施  
第3回さがみはら少年の主張の開催  
第10回市民若葉まつりへの参画(子供遊園地、とび入りステージ)  
JCチャリティー映画会「ビートルズ、ヤアヤアヤア」開催  
津久井JC合同例会「常にタイムリーな発想と実践」開催  
例会「戦国武将とその時代の人々」(講師-田中澄江氏)  
例会「すぐに役立つ正しい会議のすすめ方」(講師-竹前勝夫氏)  
例会「企業とJCにおけるリーダーシップ」(講師-斉藤斗志二君)  
LD道場「The解剖-人という動物」(講師-森田浩一郎氏)  
LD道場「心」(講師-世和玄次氏)  
例会「企業成長の基本原則」(講師-伊藤辰郎氏)

社会情勢

日本海中部地震、死者104人  
第13回参院選において、初の比例代表制選挙導入  
大韓航空機、サハリン沖でソ連機からミサイル襲撃  
ロッキード事件丸紅ルートで田中角栄元首相有罪  
日本初の体外受精児誕生  
レーガン大統領来日  
浮浪者襲撃事件を中心とした少年非行問題

# JC HISTORY

1984

昭和59年

第19代 小形 年雄



主な事業紹介

第1回市民会議「子や孫に残そう私達の緑」の開催  
 第12回神奈川ブロック会員大会の開催  
 (記念講演会 講師-藤原弘達、竹村健一氏)  
 第11回市民さくらまつりへの参画  
 例会「緑、交通、国際交流」(講師-市議会議員各派代表)  
 例会「21世紀をめざさかみはらプラン」(講師-館盛相模原市長)  
 公式訪問例会「相模川バイパス」構想の提案(講師-緒形昭義氏)  
 例会「我々企業をとりまく地域経済の動向を考える」  
 (講師-松田孝雄氏)  
 例会「集へ、英知ある青年たちよ!」(講師-河野洋平氏)  
 20周年準備会議の開催答申書「20周年の在り方」作成  
 韓国海雲台JC7周年記念例会出席JC会館完成記念植樹  
 クリスマスチャリティーピアノコンサートの開催(出演-清水和音)

社会情勢

ロス疑惑(三浦事件)表面化  
 グリコ森永事件発生  
 日経ダウ平均史上最高値11,190円  
 ロサンゼルスオリンピック開催  
 インド、ガンジー元首相死去  
 米大統領選、レーガン大統領圧勝

1985

昭和60年

第20代 内田 一夫(故)



主な事業紹介

20周年記念式典の開催(記念講演-金田正一氏)  
 (社)日本青年会議所関東研修委員長出向  
 第2回日中友好青年の翼の実施  
 緑の保全と育成「わんぱくバトロール」実施  
 緑の保全と育成「緑チャリティーコンサート」実施  
 第12回市民さくらまつりへの参画  
 例会「相模原JC20周年をむかえて脈打つJC運動」  
 (講師-鈴木邦夫君)  
 例会「青年の役割」(講師-館盛相模原市長)  
 OB合同例会「四ツ谷怪談」(講談師-神田小山陽)  
 例会「信頼されるリーダーの条件」(講師-秦野章氏)  
 例会「都市づくりとニューメディア」(講師-大宮正氏)  
 例会「JC運動とLDの役割」(講師-林達夫氏)  
 2LOM合同公式訪問例会「地域経済の活性化」

社会情勢

新風俗営業法施行  
 青函トンネル開通  
 電電公社・専売公社民営化  
 日航ジャンボ機墜落事故、日本航空史上最大の犠牲者  
 ロス疑惑、三浦和義逮捕  
 米ソ首脳会談  
 阪神、セリーグ優勝初の日本一

1986

昭和61年

第21代 杉岡 芳樹



主な事業紹介

第13回市民さくらまつりへの参画  
 JCスクールの開催  
 三世代交流ゲートボールの実施(小山スポーツ広場)  
 三世代ふれあいキャンプの実施(野外教育センター)  
 緑の保全と育成「みどりチャリティーショー・アンパンマン」  
 2LOM合同例会「我が町を考える」  
 LDセミナー(一泊)(講師-志水陽光氏)  
 経営セミナーの開催(MIA)  
 例会「JCデー全国一斉100%例会」9月3日

社会情勢

米、スペースシャトル空中爆発事故  
 フィリピン、アキノ新政権成立  
 昭和天皇、ご在位60年記念式典開催  
 ソ連、チェルノブイリ原発事故  
 英、皇太子チャールズ皇太子妃ダイアナ来日  
 土井たか子、日本初の女性党首(社会党)  
 伊豆大島・三原山の大噴火で全島に避難命令

1987

昭和62年

第22代 浦上 裕史



主な事業紹介

'87青年経済人フォーラムの開催  
 三世代ふれあいキャンプの実施（野外教育センター）  
 三世代交流ゲートボールの実施  
 第14回市民若葉まつりへの参画  
 緑チャリティーショー「アラジン」劇団飛行船  
 例会「JCとは」田舞元副会頭  
 例会「JCと義理」林達夫 東京JC O.B  
 例会「会員拡大の必要性」浅利会頭  
 例会「一泊、PIPプログラムの実施」  
 海雲台ICとの絵画交流の実施

社会情勢

日本国有鉄道民営化へJR各社が誕生  
 東芝機械、ココム規制  
 昭和天皇、膵臓疾患で手術  
 竹下登内閣発足  
 利根川教授、ノーベル医学生理学賞受賞  
 大韓航空機爆発事件  
 米ソ首脳、INF全廃条約に調印

1988

昭和63年

第23代 山崎 章



主な事業紹介

1990年関東地区サミット「相模原会議」開催の決定  
 第15回市民さくらまつりへの参画  
 緑化フェア「グリーンパル88」への参画  
 '88 まちづくりフォーラムの開催  
 世代交流ゲートボールの開催  
 例会「人生のパスポートそれは感動」丸山浩路氏  
 例会「一泊：LATプログラム」小宮山君（甲府JC）  
 例会「青少年の健全育成」パネルディスカッション  
 例会「スポーツ交流」米国軍人  
 新入会員拡大の強化

社会情勢

本四連絡橋「瀬戸大橋」開通  
 リクルート疑惑発覚  
 マル優制度廃止  
 ソウルオリンピック開催  
 海上自衛隊潜水艦「なだしお」と釣り船「第一富士丸」衝突事故、釣り船乗客30名死亡  
 米大統領選、共和党ブッシュ圧勝

1989

平成元年

第24代 水野 隆弘



主な事業紹介

みんなで相模川フェスティバル'89の開催  
 夢・相模川子ども会議の開催  
 第16回市民さくらまつりへの参画  
 MG研修「ビジネス感性トレーニング」  
 LD研修「魅力開発プログラム」林和代氏  
 例会「伸びる企業と危ない企業」早坂茂三氏  
 例会「JCエンジョイライフ」岩倉副会頭  
 例会「ふる里の川・相模川」江成常夫氏  
 例会「25周年の重み…なぜ」鎌田秀則氏  
 ASPAC'89ヨコハマへの参加

社会情勢

昭和天皇崩御、平成元年スタート  
 リクルート事件、江副リクルート前会長逮捕  
 一般消費税スタート  
 国民的歌手美空ひばり死去  
 「ベルリンの壁」崩壊  
 北京天安門広場「血の日曜日」

# JC HISTORY

1990

平成2年

第25代 渡辺 章



主な事業紹介

第17回市民さくらまつりへの参画。  
25周年記念講演の開催（講師-舛添要一氏）  
関東地区相模原コンベンション'90の開催。  
25周年記念式典の開催。  
みんなで相模川フェスティバル'90の開催。

社会情勢

ソ連、民族運動紛争  
マンデラ南ア黑人開放指導者来日  
偽造金貨流入10万枚  
ソ連ゴルバチョフ大統領選出  
国際花と緑の博覧会、大阪で開催  
イラク、クウェートに武力侵攻  
北京アジア大会開催  
東西ドイツ統一

1991

平成3年

第26代 梅澤 武彦



主な事業紹介

第18回市民若葉まつりへの参画  
「緑ゆたかな街づくり」チャリティーショー開催  
例会「90年代消費トレンドとビジネスチャンス」  
福田優二氏  
例会「競争社会を生き抜く為のリーダーシップ」  
高橋博氏  
交通シンポジウムの開催  
例会「姉妹交流10周年をむかへて」  
飯淵雅敏・根本忠幸先輩  
例会「外国入労働者雇用問題」尾源一氏

社会情勢

湾岸戦争勃発、日本追加支援90億ドル拠出  
（イラク、2月に国連決議全面受諾し敗北）  
雲仙普賢岳で大規模火砕流、死者43人  
信楽鉄道衝突事故、死者42人  
ソ連ゴルバチョフ大統領来日  
大韓民国・朝鮮民主主義人民共和国、国連に同  
時加盟  
株価大幅下落によりバブル経済崩壊  
四大証券会社、一部投資家への巨額損失補てん

1992

平成4年

第27代 細谷 政幸



主な事業紹介

第19回市民さくらまつりへの参画  
例会、1991年度日本JC副会頭鈴木宗幸先輩  
1992年度日本JC副会頭山本博史君  
海雲台青年会議所創立15周年記念式典への出席  
例会「納涼・相模川高田橋」  
例会「すてきなひとづくりセミナー」丸山浩路氏  
例会「すてきなひとづくりセミナー」舛川洋栄氏  
例会「すてきなひとづくりセミナー」尾上達矢氏  
例会「すてきなひとづくりセミナー」マリ・クリスチヌス女史  
グリーンウェーブ相模原92への参画  
コンサート「KATSUMI」の開催  
例会「世界の中の日本人の果たす役割」梅沢重雄氏

社会情勢

ブッシュ大統領来日  
日本新党結成  
牛肉・オレンジ輸入自由化  
東海道新幹線「のぞみ」運転開始  
大物政治家への闇献金疑惑発覚（東京佐川急便事件）  
PKO協力法案成立、カンボジア派遣  
金丸自民党副総裁辞任、自民党最大派閥竹下派分裂  
日本人飛行士毛利氏、宇宙へ  
天皇陛下訪中

1993

平成5年

第28代 荒井 達雄



主な事業紹介

第20回市民さくらまつりへの参画  
 (夜桜コンサートの開催)  
 ふれあいキャンプの開催  
 野外コンサートの開催大島彰氏  
 JC東京会議への参加  
 例会「感性豊かな人づくりセミナー」三浦道明氏  
 例会「自己理解、他者理解」研修インストラクター  
 例会「出向、未来へJC運動」岡田伸浩会頭

社会情勢

クリントン大統領就任  
 大相撲、曙初の外国人横綱に昇進  
 金丸元自民党副総裁逮捕  
 皇太子殿下結婚の儀  
 サッカーJリーグスタート  
 細川連立政権成立 (55年体制崩壊)  
 北海道南西沖地震  
 冷夏により米の緊急輸入

1994

平成6年

第29代 本多 宏明



主な事業紹介

第21回市民さくらまつりへの参画  
 例会「聞いて見につく、やる気満々」志水陽洗氏  
 例会「一泊、新年会及び研修会」  
 クリーン大作戦LOVE相模原'94の開催  
 相模川クリーン作戦への参画1  
 例会「環境問題等…」環境対策課、佐藤俊一氏  
 「3LOM合同例会」町田JC・多摩JCと開催  
 恐竜型ゴミ回収装置「美化ゴン」の譲り受け

社会情勢

細川首相、東京佐川急便借り入れ問題で辞任、  
 羽田内閣成立  
 中華航空機、名古屋空港で着地失敗  
 製造物責任法 (PL法) 成立  
 自民党・社会党連立、村山政権成立  
 松本サリン事件  
 新関西国際空港開港  
 大江健三郎氏、ノーベル文学賞受賞  
 新進党結成

1995

平成7年

第30代 角尾 明皇



主な事業紹介

例会「新年総会及び賀詞交歓会」  
 例会「市長例会」  
 例会「感謝の気持ちを形にして、一人一人にできること」  
 例会「ブロック会長公式訪問、2LOM合同例会」の開催  
 例会「対話力と人間関係」永田功氏  
 第22回若葉まつりへの参画  
 第1回わんぱくグリーンフェスティバル開催  
 30周年記念式典開催

社会情勢

阪神・淡路大地震死者6,308人  
 地下鉄サリン事件  
 東京・大阪で無党派知事誕生  
 沖縄県米軍兵士少女暴行事件、基地問題紛糾  
 LAドジャーズ野茂投手、新人王獲得  
 ウィンドウズ95日本語版発売

**1996**  
平成8年

## 第31代 関 英夫

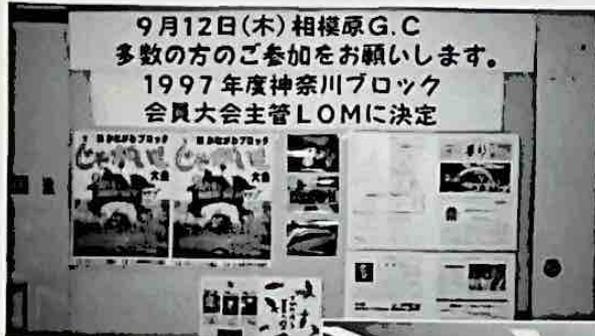
めざめよう わが地域(まち)のために バージョンアップ 相模原



日本JC 絆を生かし たすけあい 創ろう愛ある 新人間社会  
会頭 梶畑 直尚 (和歌山)

主な事業紹介

- 2月例会 「日本経済の動向」三菱総研 石井 健氏  
市長例会「市長としてのまちづくりビジョン、現在・過去・未来」
- 3月例会 「出会いの大切さ」1981年度JCI会頭 長尾源一氏  
「プロ意識の向上」(ディズニーランドのゲストサービス) オリエンタルランド 山下専務取締役
- 第23回市民桜まつりへの参画
- 5月例会 座間キャンプ交流会
- 6月例会 100%例会の開催
- 7月例会 3LOM合同「ワールドゲーム」研修
- 8月例会 第2回わんぱくグリーンフェスティバルの実施/上大島キャンプ場
- 10月例会 「草の根から地球市民運動を考える」在日カンボジア人 ベン・セタリン女史  
「相模原夢の大改造計画」
- ブロック ジャがいも大会の主管/相模原ゴルフクラブ





MESSAGE

創立40周年、おめでとうございます。早いもので私が卒業して8年、理事長職を経験させていただいてから、9年の歳月が瞬く間に経ってしまいました。

その間、多くの青年会議所の諸先輩の皆様をはじめ、現役のメンバーの皆様にも、様々な形で支えられ、今日まで来られたことを心より感謝申し上げます。

私が理事長を仰せつかった1996年度は、前年度に創立30周年を迎え、翌年に神奈川ブロックの会員大会の主管を控え、その準備を行いつつ、当該年度はブロックのじゃがいもの主管という事で、LOMメンバーの多くが疲れながらも積極的に取り組み、ブロック内の会員OBの方々が大変多く参加され、素晴らしいじゃがいも大会を開催することができました。特にこの時は、厚木青年会議所が会員大会を主管されていましたが、年度当初より会員大会とじゃがいも大会は、二つで一つであるとお互いを励ましなが、両主管LOMが非常に良い形で協力し合えたことが、素晴らしい大会を開催できた礎になったと感じております。

1996年度の私の基本理念として「めざめよう わが地域（まち）のために すすめよう 自己改革」-地球市民時代の到来と新人間社会-を柱に様々な活動・運動をLOMメンバーが中心になって、市民の皆様を巻き込み、明日の明るい豊かなまちづくりの実現を目指し一丸となって事業展開できたこと、そして多くの方々と共に協力し合い色々なことを勉強できたこと、心より感謝申し上げます。

今後の皆様の益々のご活躍、ご発展を心より祈念申し上げます。

1996年度 (社)相模原青年会議所 出向者名簿

●(社)日本青年会議所

- 業種別部会運営会議 委員 細谷 政幸
- 新人間力社会創造推進会議 委員 矢越 孝裕
- サマーコンファレンス運営特別委員会 委員 柴田 正隆

●関東地区協議会

- 財政特別委員会 副委員長 野崎 敬
- 委員 田口 直樹

●神奈川ブロック協議会

- 総務・財務連絡委員会 副委員長 岡村 洋介
- 委員 大隈 秀仁
- 委員 小磯 英次

ブロックビジョン推進会議

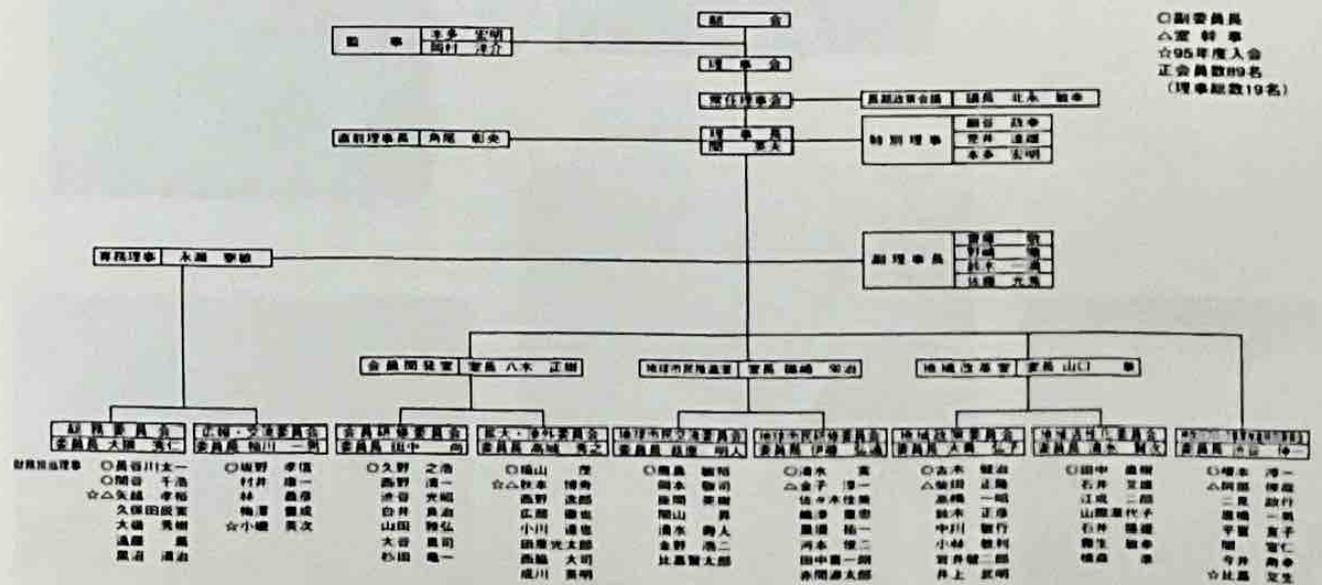
- 委員 斎藤 敬
- 委員 水瀬 泰敏
- 委員 鈴木 一満
- 委員 坂野 孝信
- 委員 澁谷 伸一
- 委員 山際 華代子
- 委員 清水 実

広報・渉外委員会

- 会員大会運営委員会 委員 澁谷 伸一
- 首都圏神奈川まちづくり委員会 委員 山際 華代子
- まちづくりネットワーク委員会 委員 清水 実

●業種別部会

- (社)日本青年会議所 石油部会 部長 細谷 政幸
- 神奈川ブロック協議会 建設部会 神奈川建設倶楽部 荒井 達雄



# JC HISTORY

1998  
平成10年

## 第33代 野崎 徹

本音で宣言! であいのひとづくり ときめきまちづくり



日本JC 確立しよう「心のスタンダード」! 行動しよう コア世代!  
会頭 新田 八郎(富山)

主な事業要覧

- 1月例会 賀詞交歓会/ホテルラポール千寿閣
- 2月例会 市長例会「今後の産業の発展とまちづくりについて」
- 3月例会 「出向で何かを得よう」第41代日本JC会頭 西村予史男氏
- 第25回市民さくらまつりへの参画
- 5月例会 「マインド・マッピング」表現力研修会の実施
- 6月例会 小田原会員大会への参加
- 7月例会 3LOM合同例会「心のスタンダードプログラム」/バルテノン多摩
- 8月例会 第4回わんぱくグリーンフェスティバルの実施
- 9月例会 「こんな時代だからカゲキに」志茂田景樹氏
- 10月例会 「人前で上がらず話す方法」表現力研修会
- 11月例会 家族会の実施/ベルヴィ相模原
- パソコン研究会の開催





# JC HISTORY

1999  
平成11年

## 第34代 齋藤 敬

考勤と情熱！ 次なる世紀の扉をあけよう



日本JC 「地域は動く 日本は動く」今こそ動こう われら地球市民！  
会頭 松山 政司（福岡）

主な事業

- 1月例会 新年会（さがみの）
- 2月例会 市長例会「青少年問題を語る」
- 3月例会 「まちづくりのための会員拡大セミナー」
- 4月例会 神奈川ブロック協議会会長公式訪問
- 第26回市民わかばまつりへの参画
- 6月例会 「障害者就労支援活動」講師竹中ナミ女史（社会福祉法人プロップ・ステーション）
- 7月例会 3LOM合同例会
- 8月例会 第5回わんぱくグリーンフェスティバルの実施／清川村立金沢キャンプ場
- 10月例会 オープンミュージアムの実施／麻溝公園
- 11月例会 「家族会」横浜ベイクルーズ・コスモワールド
- ブロック会員大会「夢・情熱ある神奈川・輝かしい未来を創造しよう」（社）津久井青年会議所主管への参加
- ペーパーレス会議の導入





MESSAGE

社団法人相模原青年会議所創立40周年心よりお祝い申し上げますと共に現役メンバーの皆様には感謝申し上げます。

私が理事長になりました1999年度は、「考動と情熱！次なる世紀の扉を開けよう」のスローガンに掲げ「コア世代」として従来の価値観や固定観念に捕らわれることなく新たな時代に向かい変革を起こす「原動力」となり、次代の主役となる「共生共創社会」達成の先駆者となれるよう「考動」を起こすことを訴えながらJC活動に取り組みました。

今振りかえれば、LOMの顔となる緊張感と信任を得たときの拍手の重み、何日も自問自答を繰り返し、幾度も筆が止まり何度も書き換えた理事長所信、今となっては生涯忘れることのできない事ばかりでした。はじめにLOMの活性化とLOM内部の充実を図るため、OBと現役メンバー、親子関係にあたる青年会議所の方々と更なる結束を深めるための新年会を行いLOMの基本を固めることからスタート致しました。また今後の3年間を考えた時にメンバーの30%の卒業者が出てしまう状況に陥り、LOMが一丸となって拡大をしければならない事を提言し、メンバーで拡大を本気で考えた一年間でした。

また、成熟したさくらまつりを市民主導にし、自分達で新しいまちづくりを起こすことを考え、白紙の状態から第1回オープンミュージアムを開催し今後のまちづくりに対し、相模原から新しい文化、芸能の才能が発掘、発展することを事業の目的にいたしました。

卒業してまちづくりに貢献している多くのOB、先輩方がいます。自分も含めて、JCにおいて学んだ事は、卒業してから多くの恩恵を受けることが多いのです。現役のメンバーの皆さんには、今活動している事に迷わず活動して頂きたいと考えています。そういう活動が将来自分に必ず戻ってきます。現在の時勢は大変厳しい時代ではありますが、現役メンバーの皆さんのご活躍を心から祈念申し上げます。

1999年度 (社)相模原青年会議所 出向者名簿

●(社)日本青年会議所

財政特別委員会

委員 井上 栄次

●神奈川ブロック協議会

会員会議所執行部会議

委員 大隈 秀仁

委員 福川 一男

委員 萩原 明人

地域主権推進委員会

委員 小磯 栄次

委員 高橋 英樹

神奈川まちづくり推進委員会

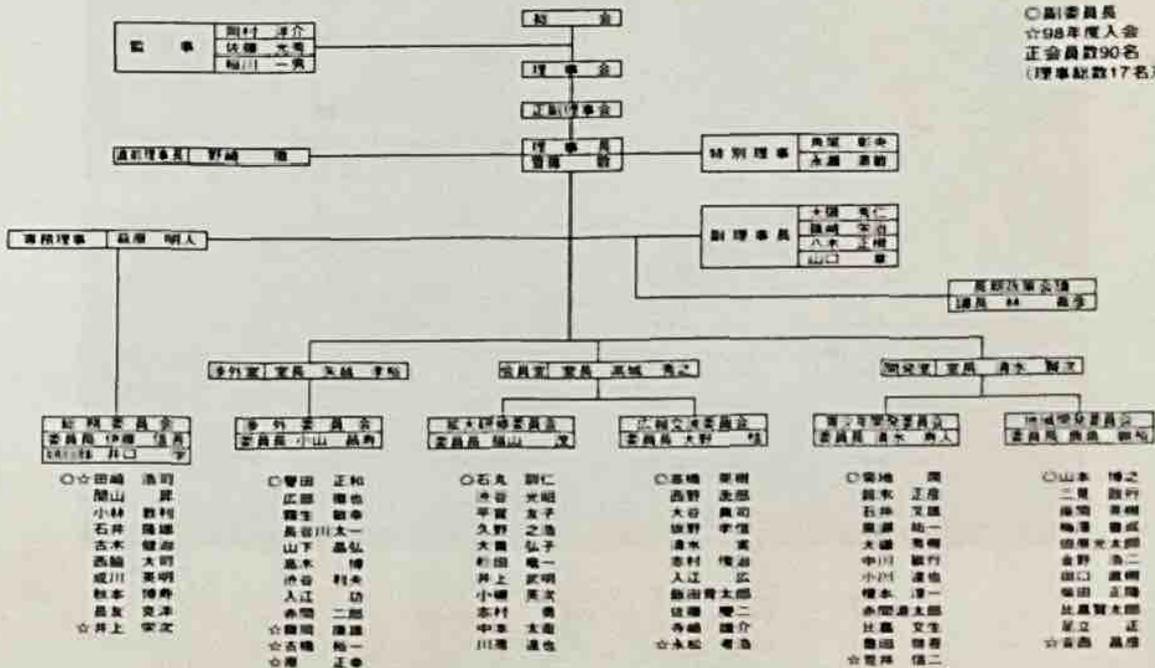
神奈川まちづくりネットワーク推進委員会

メディアコミュニケーション委員会

研修委員会

会員大会運営委員会

委員 柴田 正隆  
委員 菊地 之浩  
委員 久野 浩司  
委員 田崎 正雄  
委員 足立 康一  
委員 藤岡 裕一  
委員 古橋 裕一



# JC HISTORY

2000  
平成12年

第35代 山口 章

思いを力に きらめく21世紀へ



日本JC 若くはつらつとした日本へ エトバスノイエス 新しいことを始めよう!!  
日本JC会頭 上島 一泰 (大阪)

主な行事

- 35周年記念式典／産業会館 記念講演／「みんなちがっていい ビグマリオン効果でHALOを!」丸山 浩路氏
- 1月例会 「賀詞交歓会」
- 2月例会 「これからの青年のあり方」小泉 純一郎氏
- 2月例会 市長例会「相模原の環境問題について考える」
- 3月例会 「企業活性化の条件」
- 5月例会 「企業を伸ばすリーダーの条件」新 将命氏(元ジョンソン・エンド・ジョンソン、日本フィリップ代表取締役)
- 第27回市民さくらまつりへの参画
- 5月例会 「子供たちからの主張から青少年問題を考える」
- 8月例会 「OB交流会」の実施
- 8月例会 第6回わんぱくグリーンフェスティバルの実施／上大島キャンプ場
- 9月例会 「日本をよくする経営道」板橋 清氏 ((社) 倫理研究所)
- 10月例会 「中核市ならびに政令指定都市について」横山 正人氏 (横浜市会議員)
- 10月例会 オープンミュージアムの実施／淵野辺公園
- 例会 家族会／多摩テック





MESSAGE

社団法人相模原青年会議所創立40周年誠にとおめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

20世紀最後の年に理事長をさせて頂きました。21世紀へのバトンをつなぐ役割として、青年会議所の原点に立ち、今後の方向性を考える年でした。その中では我々メンバーも一市民としての主体性を持ち「ものを言う青年、行動する青年」というスタンスから一人一人の想いと夢を力にし、市民にアピールできる活動を実施していきました。

相模原市の人口もこの年の5月に60万人を突破し、当市も様々な可能性が生まれる年でもありました。地方分権が叫ばれるなか今後の相模原市を考えた時、中核市及び政令指定都市についてその必要性があると思ひ、提言書「政令指定都市をめざして」を作成致しました。今では相模原市も中核市と成りましたが、政令指定都市へ向けての想ひは今後も受け継がれていかれると思ひます。

また35周年の年でもあり記念講演、記念式典を開催致しました。記念講演では丸山浩路氏を迎え、青少年問題についてご講演いただき感銘を受けたことを思い出します。

印象に残る例会として、衆議院議員小泉純一郎氏を迎え「これからの青年のあり方」をテーマに公開例会を行い、多くの市民の皆様にご来場いただきました。この他にも多くの例会、事業を通じメンバーの力と汗を感じとった年でした。

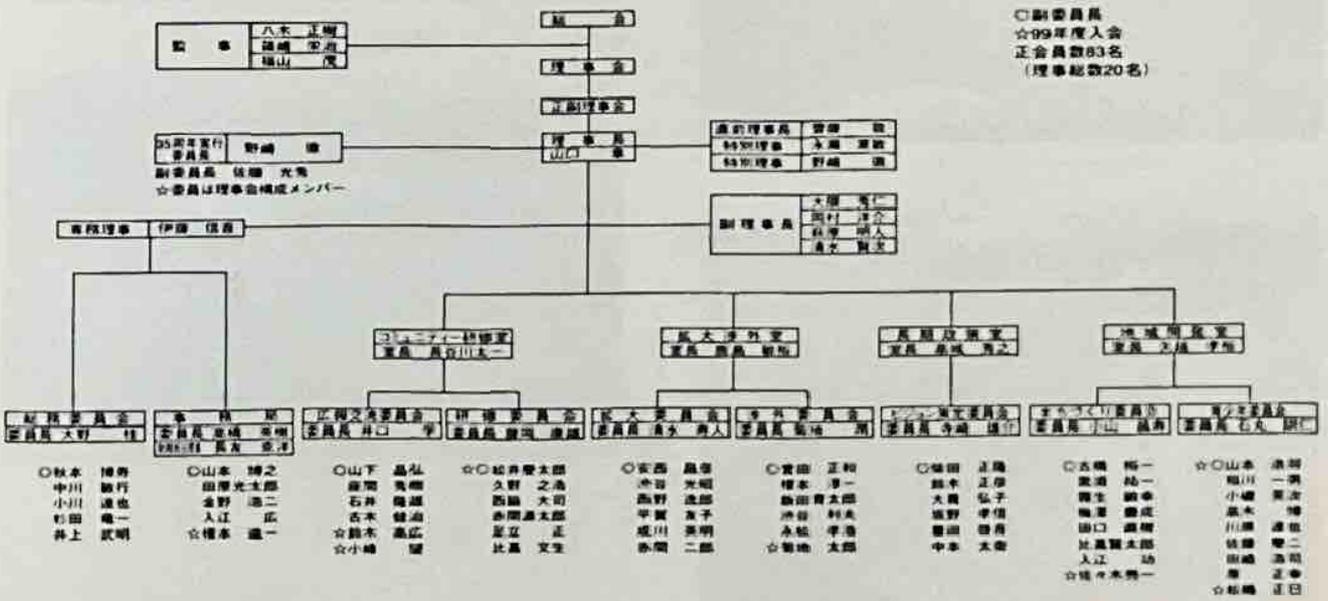
OBとなり青年会議所で培ったものは何ものにもかえがたいものであり、今後も様々な場面で活かしていきたいと思ひます。

これからも現役メンバーの皆さんの勇気と情熱をもって「明るい豊かな社会の実現」へ向けて邁進していただきたく思ひます。社団法人相模原青年会議所の益々のご発展を心より祈念申し上げます。

2000年度 (社)相模原青年会議所 出向者名簿

●神奈川ブロック協議会

神奈川ネットワーク連絡協議会	委員 大隈 秀仁	グローバルネットワーク推進委員会	委員 赤間 源太郎
	委員 八木 正樹	企業活性化特別会議	委員 小磯 英次
	委員 伊藤 信吾		委員 藤岡 康雄
神奈川まちづくり推進委員会	委員長 篠崎 栄治	研修スクール運営委員会	委員 鈴木 高広
	幹事 小山 昌寿		委員 小峰 望茂
	委員 古橋 裕一	コミュニケーション推進委員会	委員 福山 浩将
21JCマインド創造委員会	委員 松井 慶太郎		委員 山本 孝信
	委員 足立 正	会員大会運営委員会	委員 坂野 孝信
共生システム創造委員会	委員 秋本 博寿		委員 豊田 啓吾



# JC HISTORY

2001

平成13年

第36代 大隈 秀仁

青年の発信・提言を今！新世紀に挑め相模原



日本JC 「新世紀へのCOMMITMENT」今、Jayceeが未来を拓く  
会頭 土屋 龍一郎（長野）

主な一挙

- 関東地区大会の主管
- 1月例会 「賀詞交歓会」
- 2月例会 拡大例会の実施
- 3月例会 市長例会「より明るい豊かな社会の実現をめざして【21世紀の相模原を考える】」
- 第28回市民さくらまつりへの参画
- 5月例会 例会「まちづくりに関する例会」
- 6月例会 「普通の大人に出来ること DERE TO CARE ～取えておせっかい～」講師小田啓二氏  
ロバート議事法研修
- 7月例会 3LOM合同例会／玉川大学 センチュリー相模大野
- 第7回わんぱくグリーンフェスティバルの実施／上大島キャンプ場
- 8月例会 オープンミュージアム in SAGAMIの実施／田名花と芝生の広場
- 10月例会 高齢者問題に関する例会  
例会 家族会の実施／ベルヴィ相模原
- LOM運動指針の策定
- まちづくりに関する提言書の作成
- 高齢者に関する提言書の作成
- 子ども達の育成に関する提言書の作成
- 研修資料冊子の作成
- LOM宣言の策定





2002

平成14年

第37代 伊藤 信吾

時代に吹き込む風となれ 我ら まちのコーディネーター

日本JC 泥滝からの出発 -夢をかたちに、そして、かたちを現実-  
会頭 松本 秀作 (枚方)



主な事業紹介

- 1月例会 「賀詞交歓会」
- 2月例会 市長例会 「5つの提言書についての意見交換」
- 3月例会 「PIPプログラム (自分を知る、仲間を知る)」
- 第29回市民さくらまつりへの参画
- 5月例会 「ボランティアについて考えよう」 講師 コイ・パダラ氏
- 大人包囲網、映画「とっかえっ娘」の実施
- 6月例会 「町田・相模原広域まちづくりを考える」の実施 経済産業省 松藤 保孝
- 3LOM合同例会 講師 金平 敬之助氏
- 8月例会 第8回わんぱくグリーンフェスティバルの実施/上大島キャンプ場
- 9月例会 オープンミュージアムの実施/相模大野中央公園
- 10月例会 「市民活動ネットワーク・フォーラム」の実施 講師 牛山久仁彦氏  
ボランティア協会 西本 敬氏 境川斜面緑地を守る会 太田 浄子
- 例会 家族会の実施/千葉県安房郡富山町
- LOMミーティングの実施



**柴胡**  
専任の編集者！  
毎月10日発行  
発行所 日本JC  
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1  
電話 03-3256-1111  
FAX 03-3256-1112  
E-MAIL jc@jc.or.jp

**いよいよ最後創刊50年！  
一歩一歩を大切にしよう**

**青年部会・青年部会交流会 開催される。**

本会青年部会は、平成13年度、第10回全国大会を開催し、大変盛況を収めました。この大会には、全国の青年部会代表が参加し、交流を深めました。また、本会青年部会は、平成14年度、第11回全国大会を開催し、引き続き盛況を収めました。この大会には、全国の青年部会代表が参加し、交流を深めました。

本会青年部会は、平成14年度、第11回全国大会を開催し、引き続き盛況を収めました。この大会には、全国の青年部会代表が参加し、交流を深めました。





message

「ブロック会長はすべきじゃない。」「いや是非して欲しい。」

緊急で開かれた臨時理事会は、重苦しい雰囲気になりました。相模原から22年ぶりのブロック会長を目指す、その産みの苦しみは大変なものでした。会長輩出LOMの重圧を乗り越えることができるのか・・・未知の世界を前にして、正直言って私自身、体が震える想いでした。理事会で賛否の多数決をとれば、賛否が半々で拮抗している雰囲気でした。私自身が理事長であり、ブロック会長の候補者となるかどうかの議題でしたので、経験した数多くの理事会の中でも、これほど息苦しい理事会はありませんでした。「一日考えさせて欲しい。そして、私の決断に任せて欲しい。」私のそんな想いに、理事全員が賛成してくれました。

眠れない夜を過ごしましたが、LOMの歴代の皆様やブロック協議会の諸先輩方からの応援の言葉もあり、翌日、ブロック会長立候補を決断しました。

予定者の会員会議所、京都会議、全体会議・・・矢継ぎ早の事業を懐かしく思い出します。私自身の力ではなく、当時の矢越孝裕理事長をはじめとするLOMの総合力で、大きな事業を次々とこなしていく充実感にあふれていた一年でした。

卒業してつくづく感じます。JCにいたことが幸せだったことは当然ですが、中でも、「相模原JC」にいたことでとても幸せだったということ。今でも、他のLOMが人数を次々と減らしていく中、相模原JCだけが拡大を続けて、元気のあるLOMでありつづけて来たことを誇りに感じています。

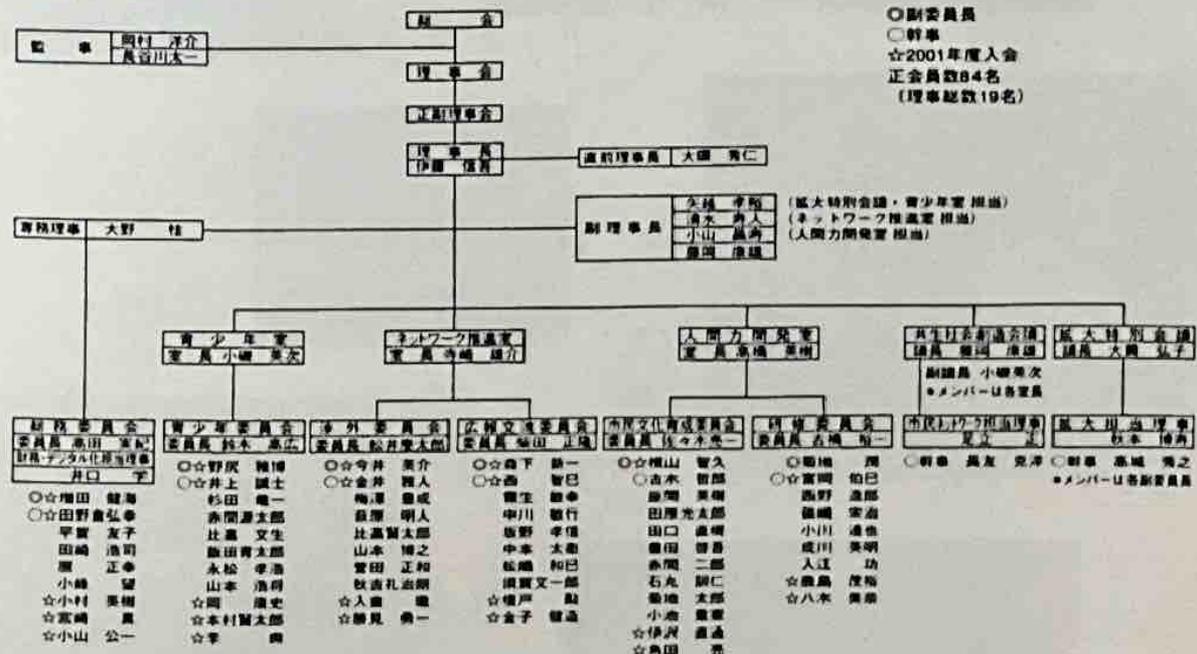
私の30代の全ての思い出は、JCとともにあります。JCはチームで活動する楽しさを十分に味わわせてくれました。今後も、JCにいたことや学んだことを誇りに思っ、仲間を大切に、仕事に地域活動に全力で取り組みたいと思います。

2002年度 (社)相模原青年会議所 出向者名簿

●神奈川ブロック協議会

神奈川ネットワークーズ連絡会議	委員 小山 昌寿	メディア発信委員会
	委員 大野 桂	
地域主権推進委員会	委員 岡村 洋介	
	委員長 秋本 博寿	
社会起業家実践委員会	委員 長友 克洋	会員大会運営委員会
	委員 柴田 正隆	
人間力開発実践委員会	委員 田野倉 弘幸	
	委員 古橋 祐一	

委員	伊 沢 直 通
委員長	長谷川 太 一
総括幹事	山 本 浩 将
委員	石 九 訓 将
委員	井 上 誠 士
委員	小 山 公 一
委員	森 下 新 一
委員	榎 戸 勲



# JC HISTORY

2003

平成15年

第38代 矢越 孝裕

挑め さがみはら！ 新人間力創造元年へ



日本JC 新次元への Break through! 「日本改新」～誇り高き、人の時代へ～  
会頭 揚原 安磨 (福井)

主な事業紹介

- 1月例会 「賀詞交歓会」
- 2月例会 市長例会「地方分権の方向性と地域主権、市民団体への期待、民会委託業務の方向性」
- 3月例会 「人づくりとまちづくり」元日本JC会頭 土屋 龍一郎君  
例会 新生まちづくりフォーラムの実施 相模原市長 小川 勇夫氏 町田市長 寺田 和雄氏  
津久井町長 天野 望氏 明大助教授 牛山 久仁彦氏 コーディネーター 田原総一郎氏
- 4月例会 「大海原を目指せ・蛙（カワズ）たち」～涉外活動で見つけよう！「あらたなJC～」の実施  
高橋 祐介君
- 第30回市民わかばまつりへの参画
- 6月例会 日本JC会頭LOM訪問 日本JC会頭 揚原安磨君
- 7月例会 3LOM合同例会の実施
- 8月例会 第9回わんぱくグリーンフェスティバルの実施
- 10月例会 第4回オープンミュージアムの実施  
例会 「家族会」の実施／藤野芸術の家・五感の里





# JC HISTORY

**2004**  
平成16年

第39代 **柴田 正隆**

共感・協働・感動 わくわくからはじまる NEW JC VALUE



日本JC 大きな環と小さな環が響き合う「スローソサエティ」の実現へ  
会頭 米谷啓和（姫路）

主な事業紹介

- 1月例会 「賀詞交歓会」
  - 2月例会 市長例会「近未来の相模原」
  - 3月例会 「心を動かす、人を動かす」(株)モノリス代表取締役 岩井良明氏
  - 第31回市民さくらまつりへの参画 「世界一の空気イスに挑戦、チャレンジ・ザ・ギネス」の実施  
例会 「家族会」／横浜中華街 華正楼
  - 5月例会 「子どもが夢を持つために大人が出来ることとは」講師 菅原亜樹子氏・真船貴代子氏
  - 6月例会 「～貢献する心～」May 愛 Help Youの実施
  - 8月例会 まちmuchたんけん隊 ～みんなで遊べばお友だち～の実施／川尻小学校体育館
  - 9月例会 パワーアップ商店街の実施  
例会 津久井JC合同例会／明大助教授牛山久仁彦氏 城山町長小林正樹氏
  - 10月例会 「助け合おう！みんなのまち！地域のきずな！」の実施
- ラジオ番組「わくわくからはじまる BEST WORK OF LIFE」の実施 点字名刺の実施 献血推進運動の実施 ホームページ研修の実施 ビジネスプレゼンの実施 相模原・津久井地域合併勉強会の実施 市町村合併に関する市民アンケートの実施 地域の先生活動の実施



message

ゼロベースから全ての事業を見直す。これが、04年度に理事長を拝命したときに私が決めた当年度の方向性でした。それまでの間に、国際アカデミーやプライムセミナー、GCTSなどのJCのさまざまな事業に参加をさせて頂き、そのたびにJC運動のすばらしさや、その原点に触れる機会をもらい、「積極的な変化の創造」を具現するために今の相模原に何が必要か、考えに考えた結果出た結論でした。

「本当に、メンバーのために、地域のために、いまこの事業が必要なのか？」

「本当にこの形態やスタイルでの事業構築が、気付きにつながっているのか？」

そんなことを考え、所信に認めた事をいまでも昨日のように思い出します。継続事業をゼロベースで見直すということは、先輩方が築いてくれた歴史に対して、再度検証と見直しをするということです。先輩方が汗水たらして構築してくれた歴史を「今の時代に合っているのか」と投げかけることとなります。しかし、JCの根本理念である「積極的な変化の創造」を実現していくためには、それらを実施しない事にはどうにも前進しません。各事業に思い入れの深いメンバーも多くいました。予定者の段階では、多くの委員会を周り、時には声を大にして「ゼロベース」の必要性を語り合いました。

「本当に、いま、この事業が必要か、もう一度自分たちで考えてほしい。考えて考えて考えた結果、同じ事業になるなら、再度実施してもいいじゃないか」

時間はかかりましたが、共感と賛同を得て、一年間事業を構築していくことが出来ました。産みの苦しみがあから、真剣にやったから、情熱を持って構築したから、JCを通しての友情が育われ、感動を共有できるという事を、伝えたい一心でした。それらを通して、更にJC運動に邁進してくれるメンバーが一人でも増えることが、まさしくまちづくりそのものであると信じ、まだ残る現役生活を、今度は側面から、時には後方から支援すべく、活動をしていきたいと思っています。

50周年を迎えるころ、どんな相模原JCに変貌を遂げているのか、楽しみです。そして、40周年本当におめでとうございます。

2004年度 (社)相模原青年会議所 出向者名簿

●神奈川ブロック協議会

正副役員  
委員会協議所連絡会議

まちづくり推進委員会

広報メディアコミュニケーション委員会

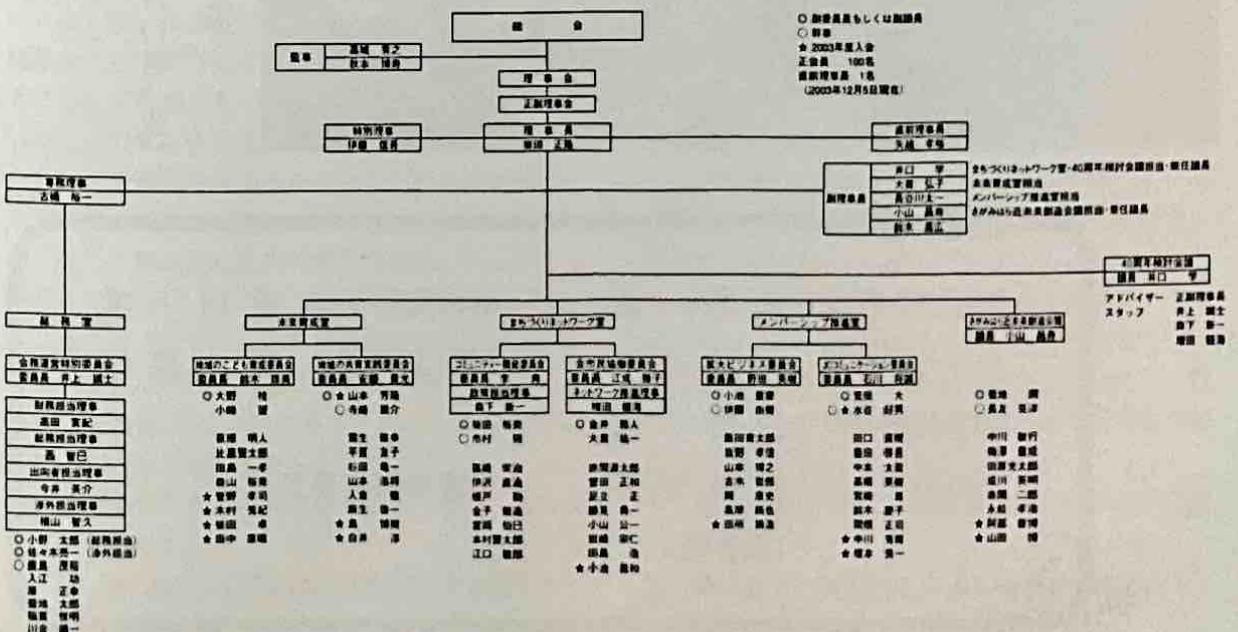
直前会長 伊藤 信吾  
委員 古橋 裕一  
委員 長谷川 太一  
委員 秋本 博寿  
委員 菊地 潤樹  
委員 高橋 英克  
委員 長友 洋将  
副委員長 山本 浩一  
委員 川合 靖一  
委員 足立 正淳  
委員 白井 淳

人間力開発委員会

会員大会運営委員会

事務局

委員長 鈴木 高広  
総括幹事 森下 新一  
委員 市村 努望  
委員 小峰 浩之  
委員 田所 靖秀  
委員 高城 大紀  
委員 荒俣 秀英  
委員 木村 英介  
運営委員 今井 孝隆  
運営委員 田島 一孝  
運営委員 山本 芳隆



# 創立40周年記念 座談会 Part 1

## チャーターメンバーに聞く 相模原JIC創立の 思い出・エピソード

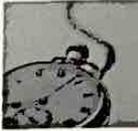


とき 平成17年5月17日(火)  
ところ 相模原 とん平

### 出席者

初代理事長 矢島 治  
第4代理事長 古藤 友昭  
第6代理事長 内田 寛  
チャーターメンバー 加藤 光男  
(敬称略)

第40代理事長 井口 学  
40周年実行委員長 鈴木 高広  
記念誌編集委員会



## 何もないところに、なぜ36人のメンバーが集まったのか？

**理事長** 本日はお忙しい中にご出席いただきまして誠に有り難うございます。本年度（社）相模原青年会議所40周年にあたりまして、是非、チャーターメンバーにお会いして、創立時の模様を記念誌に載せて今後の会員に伝えていきたいと思いました。それでは最初に、何故相模原にJCを立ち上げようと思ったのか、当時のお気持ちなどを伺いたいと思います。



矢島

**矢島** 私はJCのことは知りませんでした。山光社の西村さんから、38歳くらいの時に40歳までJCをやってみないか、作ってみないかとお誘いを受けました。そして東京JCの木下さんという方が熱心に説明に来られて、JCとは何かという話を伺いました。

**中村** 当時、横浜にできて川崎にできてという流れでした。「経済人が中心の組織です」と説明を受けました。最初は橋本のメンバーが多かったんです。そして橋本から上溝、麻溝と広がっていった。ロータリークラブの関さんにもお手伝いいただきました。

**加藤** 矢島さんがお医者さんで、その後に葬儀社、そしてお坊さん。この関係は繋がりが深いんです。何だかおもしろそうだったので。

**矢島** 当時は「JCでこんな活動をしたい」とかいう気持ちは正直ありませんでした。おもしろそうだからやろうと。木下さんが毎週のように説明に来てくれて、横須賀JCの高地さんも熱心でした。

**理事長** 私がどうしてだろうと思うのは、何もないところに何故36名ものメンバーが集まったのかなということです。会員拡大でJCを知っているはずの私たちがさえ仲間を集めるのが難しいのに何故でしょうか。

**中村** それは矢島先生の求心力です。ロータリーができて5年目くらいで、協力もあったからですね。

**矢島** ロータリーからも援助するからと言われてました。そして山光社、淵野辺病院、横浜銀行といった場所で毎週1回くらいは集まりました。木下さん、高地さんの努力が大きかった。

**理事長** 今でも南部の人は少ないのですが、当時はいかがでしたか。

**加藤** 少なかったですね、上溝と下溝で何名かでした。



## 認承証伝達式は市民会館始まって以来の大イベント

**理事長** 認承証伝達式の思い出やエピソードを伺えますか。

**内田** 私は認承証伝達式の司会だったのですが、来訪JCの紹介を間違えてしまったのをよく覚えています。どこかで間違えてしまいました。



内田

**理事長** 認承証伝達式にはどのくらいの人数が来たのですか。

**内田** 数はわかりませんが、とにかくたくさんの方が来て、市民会館始まって以来の大イベントでした。

**加藤** 私は実行委員長でしたが満員の会場を見て爽快でした。ただ空調が効きすぎて家内に「寒い、上着を持ってくればよかった」と言われました。式ではアーミーバンドが演奏をしたのですが、内田君とキャンプ座間へ国家演奏のアーミーバンドを頼みに行きました。認承証伝達式の当日は、君が代の演奏の後、打ち合わせになかったアメリカ国家の演奏が始まってしまってびっくりしました。当時の細谷君が「なんだかボクシングのタイトルマッチが始まるようだった」と言っていましたよ（笑）。

**内田** 認承証伝達式を見てみんなに「さすが相模原」と言われたのが嬉しかったですね。

**加藤** それからエクスカージョンをやりました。田名の河原に全国のメンバーを呼んで、バスを連ねて行ったのです。その時、私の知人が白バイで先導してくれて、16号をまっすぐノンストップで行きました。今ではそんなことはできませんが、そういうことを許す時代でした。

**矢島** 鮎をエクスカージョンのために用意していたんですが、認承証伝達式の前日は雨が降っていたので、鮎の見張りに細谷君や原君は田名の河原で一晩中逃げないように見張っていました。それでもだいたい逃げたんだけど、当時の漁業組合の会長が「かまわないから」と相模川の支流に池を作らせてくれたんです。細谷君や原君が見張りをしている間、私は年寄りなので「少し休め」と言われて2~3時間寝ました。

**中村** 認承証伝達式の前日は、ほとんどみんな徹夜でした。

**矢島** 翌日、朝起きると素晴らしい天気でした。素晴らしい天気になったことは幸福でした。



## 機関紙「柴胡」を創刊し、 県内LOMに配布

加藤 実は私は認証伝達式の時ひとつ違反をしていました。年齢違反です。創立総会の時40歳で認承証伝達式の時は41でした。川崎JCも認めてくれていたので、もう時効ですが。



中村 それで矢島さんが加藤さんをシニアクラブの会長に推薦したのです。

加藤 JCに鐘があるかと思いますが、私と矢島さんの名前が書いてあります。寄贈しました。

矢島 初代のみんながお金を出して基金を作ったのです。各企業にも協賛金をもらいました。

それから「柴胡(さいこ)」という機関誌を発行したのですが、何故柴胡になったのか皆さん知っていますか？ 宮崎直道さんが名付け親、初代の編集委員長は大塚さんでした。柴胡という名前は柴胡ヶ原の意味で漢方薬のことなんです。

古藤 かつて相模原にたくさん自生していたそうですよ。

鈴木 初代の矢島先輩の時から柴胡はあったのですか。

中村 認承証伝達式から配布して3号くらいまで作って、10周年の時は柴胡を編集して作りました。

矢島 大塚さんは素晴らしい方でした。日本医師会にも誘われたんですが、神奈川県副会長になってすぐ亡くなってしまった。第1号から素晴らしいものができたのです。

理事長 機関誌はLOMの外にも配布していたんですか？

矢島 はい、当時県内に10LOMくらいあって配っていました。編集の方も山内君がよくやってくれました。

内田 私の頃は創立時の盛上がりから少しトーンダウンしていて、まず、理事長のなり手が少なかったような気がします。

矢島 田名のエクスカッションの時は「かなりお金がかかったら」と言われましたが、そんなにかからなかったんです。少し黒字になったと思います。市民会館もただみたいな料金で借りられたんです。

中村 市も我々に期待していたんでしょうね。

理事長 こうした生みの苦しみを経て創立したJCですが、その後、どのように認知されていったのでし

ょうか。

加藤 川崎JCに増田弁護士という方がいたのですが、この増田弁護士がます市役所を啓蒙しようと言いついて、青年会議所を役所に知ってもらおうと訪れて、部長やら課長の前で「社会とはソサエティではなくコミュニティである。青年会議所には偉大な力がある」と演説をぶったことがありました。向こうは青年団だと思っていましたから。

矢島 川崎JC出身の斉藤文夫さんは、神奈川県議会議長席で神奈川県内のJCを集めて副知事に質問をしたんです。亡くなった高城史郎さんもなかなか活発に意見して「県はこういうことをやらなければいけません」と水道部長に言ったものです。

加藤 彼は声も良くてJCソングのソングリーダーでした。

理事長 創立メンバーは知的レベルが高かったんですね。

中村 そういう人が集まったんです。古藤さんも直球勝負で大変な理事長でしたよ。

古藤 今思えば、中村君とはよく喧嘩したものです。



## 当時の30代は、 大人のなかの子ども

理事長 当時の理事会はどうでしたか。

内田 うちの時は定員不足で2~3回程、例会を流したことがありました。

理事長 例会にも定員があったのですか？

内田 出席が3分2以下で例会を開催できない時もあったのです。

中村 矢島さん・土屋さんの両名が抜けて、伝統が作られないまま3代目の飯田や古藤さんが苦勞されたんですね。

内田 お金がなくてそれで考えることが小さくってしまいました。それで歌劇ハムレットをやったんです。確か40~50万黒字を出しました。あれでだいぶみんなの意識が変わったと思います。

矢島 あの時は市民会館に大勢の人が集まりましたね。

鈴木 早朝野球もやられたようですね。

中村 大貫さんのメイン事業、そして私の時です。



中村



古藤 ランドセルカバーという事業も必要性を感じてやろうとしました。行政がなかなか動かないことを積極的にやりましたね。今では行政がやるようになりましたが。

加藤 JCが啓蒙するといったことが行政に繋がったんでしょうね。

中村 しかし当時は議事録がなかったり、会計は大雑把など今のJCの方がはるかに立派です。

古藤 当時の30代は大人の中の子どもだったからね。

内田 確かにそうですね。私がJCに誘われたとき、「人間40までにかくべき恥は全部かけ」と言われたのを思い出します。

中村 今の理事長は40周年から次の50周年に向けて新しい発想をしなければいけないから大変でしょうね。初代と同じくらい大変だと思います。四段ロケットから五段ロケットに点火するようなものです。今のJCはこの不景気によくやっていると思いますよ。



## すべてが勉強だった JC活動

理事長 JC活動をやっていて今に生きていること、ためになっていることを教えてください。

内田 私は元船乗りで、朴訥で口数の少ない男と言われてました。JCに入って3分間スピーチなどで話せるようになったこと、人前で話す機会を得たことなどが良かったです。

理事長 当時も3分間スピーチもあったのですか。

内田 ありました。

古藤 私はすべてが勉強になりました。仲間や人脈、今の自分があるのは何かあればすぐに相談できる仲間がいること。

矢島 仲間が増えたことがなによりです。何かをつくるという経験が、その後の医師会でも長年役員を続けられたことです。JCを辞める時に「メンバーはできるだけ出しゃばりなさい、自己PRをきなさい」と言った。そして「自分の仕事が失敗したらJCを辞めなさい、成功したらJCに戻りなさい」と言いました。医者ですから医師会活動をやるのはあたりまえのことです。



古藤

加藤 私も若い時代に異業種と親密な仲になることが良かったです。若い時に心からつきあえる仲間ができることが人生を通じて一番大事。友達が財産です。

中村 私はその後、書店協同組合で組織づくりをしましたが、JCで学んだこと、社団法人を作ったことが大変役立ちました。相模原にいて職業を通じて皆様と世の中と付き合える、それがJCで教わったこと、どんな仕事でもいかに地域社会に認められるか、必要とされる組織であるか、それがおかしかったら我に返ってやり直さなければいけない。そんなことを学びました。また友人は財産ですね。継続は力なりですからこれからも頑張って下さい。

理事長 社団法人格になったきっかけは何ですか。

中村 公益法人として世に必要とされる団体になろうと思いました。一番思い出すのは、申請の手続きの際に県の方から「直前理事長とはなんだ」とよく質問されました。若者の意見が整合性を持つように、その発言に重みが、情報の発信があるようにと思いました。

矢島 今思い出しましたが、OBになったら絶対に口出すなと言ったことを思い出します。

中村 今、OBと現役の関係が一番いい時だと思いますね。

理事長 最後に現役会員に向けてメッセージをお願いします。

矢島 40周年式典で一番素晴らしいと思ったことは、井口理事長の意気込みでした。

加藤 若いときは試行錯誤の連続ですが、熟慮したら断行して下さい。これがいいと思ったら必ず実行して下さい。

古藤 友人と信頼関係を築くことです。その上で今の自分があることを忘れないで下さい。

内田 私はJCで自分自身を作ったと思っています。今、仕事・人生に疑問や後悔はありません。JCから学んだことは今の自分を的確に理解できる、自分を得たということです。いろんなことをしましたが、道を反れなかったことはJCから学んだことが大きかった。JCの中からのいろんな自分を見つけていたみたいです。

中村 今の青年会議所は黄金時代です、黄金時代は長く続かないので頑張って下さい。県下3番の規模なんて素晴らしいことで、OBとして感謝しています。今後、50周年に向けて蓄積して行って下さい。

# 創立40周年記念 座談会 Part 2

## 市長対談

日時：2005年8月11日（木）

場所：相模原市役所市長室

出席者：小川勇夫相模原市長 井口学理事長

鈴木高広次年度理事長予定者 柴田正隆直前理事長（コーディネーター）

柴田 小川勇夫市長には、私ども社団法人相模原青年会議所創立40周年記念対談にお時間をいただきまして、誠に有り難うございます。相模原青年会議所は、お蔭様をもちまして、本年創立40周年を迎えることができました。この10年の間に当青年会議所も多くの市民の方々にかなり認知されるようになり、行政の皆様とコラボレーションする機会も多くなってきました。そこで今回の対談では、小川市長から今後の相模原青年会議所への期待や要望をお聞かせ願えればと思っています。

井口 冒頭にあたりまして、本年、相模原青年会議所の各種事業にご協力いただいておりますことに御礼申し上げます。これからも相模原青年会議所は、時には相模原市の皆様と協力し合い、時には意見をぶつけあいながら、相模原市のために活動してまいります。

鈴木 2006年度、理事長に就任予定の鈴木です。本日は、市長のご意見をうかがい、来年の活動に活かしていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いたします。



### これからの青年会議所と行政、市民との関係について

柴田 最初に、青年会議所が目的とする「明るい豊かな社会の実現」というところでお話をうかがいたいと思います。相模原青年会議所は様々なまちづくり活動を推進しておりますが、小川市長から青年会議所に要望などがありましたら、お聞かせください。

市長 まずは、相模原青年会議所創立40周年おめでとうございます。まちづくりと青年会議所の関係は、30周年を迎えられた頃から比べると随分と様変わりした感があります。昨今、市民参加が叫ばれている中、市民桜まつりをはじめとした取り組みなどで、

市民と青年会議所、行政との関係が構築されつつあるのは良いことだと思います。ただ、青年会議所の組織体制は単年度制のため、一年間という限られた期間で全力疾走されるわけですが、今後は3年、5年先を見据えた継続的な活動をする必要があるなと思っています。また、他の市民団体との関係ですが、今後も多くの市民団体とも連携をとりつつ、青年会議所の特徴でもある若さを生かし、市民活動の中心的な役割を担われることを期待しています。

柴田 井口理事長から今後の青年会議所の展望や行政への要望などがありましたらお願いいたします。

井口 かつては、青年会議所しか市民団体が無いというような時代でしたが、今は「青年会議所もある」という時代になり、私たち青年会議所も今後の活動の方向性に関しては模索している最中です。また、小川市長が仰るように単年度制であっても活動の一貫性を維持することも必要だと考えています。ある意味では、青年会議所が追い込まれる環境になったわけですが、しかし、それは決してネガティブに考える必要はなく、本当に多くの人達が地域のことに関心を持ってくれるようになってきている証だと、良い意味に捉えています。青年会議所がこのような状況下で市民団体の中で中心的に活動していくためには、やはり青年会議所としてのアイデンティティをしっかりと持つこと、それと市民や市民団体との協力が欠かせません。

行政に対する要望としては、都市内分権についてです。今は、パートナーシップ型のまちづくりということで、行政の方が必要だと思ったところに市民がかかわる形ですが、都市内分権が実現したとすれば、エンパワーメント型のまちづくり、市民がこれは必要だというものに行政が力を貸していただける仕組みが重要です。今後はパートナーシップ型からエ

ンパワーメント型に変遷するためのステージを都市内分権の仕組みの中に作っていただきたいですね。

**市長** 都市内分権はとても重要であり、また慎重に取り組む必要があります。そのために、市民の方々に十分な説明をしながら進めていくことが肝要であると思っています。現在進めている合併を例にすれば、行政を細分化するだけではなく、最終的には市民サービスの向上に繋げていく必要があります。それは、合併で「市民サービスも与えますよ」というようなお仕着せがましいものではなく、エンパワーメントすると言った形にならなければ、本当の意味の地方自治体ができてきません。こういう大きな課題に直面している時にこそ、青年会議所の皆様が活動されていることは、大変ありがたいですし、同時に青年会議所ならではの活動と言えるでしょうね。

**柴田** まさしく、相模原市は、青年会議所が取り組んでいる地域主権型社会に向かった過渡期にあると思います。具体的に相模原青年会議所は、これからどのような取り組みをしていくのかということと井口理事長に、鈴木次年度理事長には一貫した方針を持つという観点から、それぞれお話を伺えますか。

**井口** 青年会議所の活動というのは、最近では市民主権型社会をつくりあげる活動に変遷しつつあります。自分たちのことは自分たちでやろうとする姿勢が重要になり、それが発展を遂げると地域主権型社会になります。まちづくりを自分たちでするのは権利ということになるわけです。このような観点から、現在、注目しているのは合併後の新市に設置される地域自治区です。津久井町及び相模湖町に設置される予定の地域自治区は都市内分権の試金石となるのではないかと考えています。当面は、私たちの活動は地域自治区にどのような形でお手伝いできるかというところに比重をおくべきだと思っています。

この合併を成功させることは、やはり重要であると思っています。と言いますのも、50年、100年後をイメージした時、日本の人口の減少は确实ですが、東京への一極集中は変わらないと予測できます。そして、東京のベッドタウンである相模原市は、エリア人口の減少は免れないとしても、他の地域よりは人口の減少は少ないと想像できます。地域を支える基礎人口が確保できるうえに、さらに水と緑あふれる自然資源をうまく活用することができれば、この地域は恵まれた地域になるでしょう。このような未来溢れる地域で市民の力が養われていれば、地域間競争になった時に相模原市は他の地域から羨望の眼

差で見られるはずと考えられるのです。

**柴田** メリットと同時にデメリットもあるということとを住民の方々が議論をした上で合併を進めていくわけですから、そういう意味でも市民力は確実についていくことができます。市民力を高めてから目の前にある地域自治区などの問題と向き合うわけですが、その中で、青年会議所が今後のまちづくりに携わっていくとすれば、来年以降、具体的にどのような取り組みを行っていきますか。

**鈴木** いろいろな課題を考えたとき、青少年に関する問題もそうですが、地域コミュニティが活発であればいろいろな問題は自ずと少なくなっていくと考えています。小さいコミュニティの集積の上に市があるわけですから、市民意識・地域意識をもっと高められるよう、地域コミュニティに視点をあてた事業を増やしていければと思っています。今年度の事業で9月に相模原エココミュニティまつりを開催しますが、リサイクル活動を通してコミュニティの大切さや、みんなでひとつのことを共有する意識が生まれる契機となることを期待しています。

**市長** 地域自治区の話がありましたが、スタートは今までのコミュニティをいかに温存するかということから始めないと理想ばかりになって途切れてしまいます。その後に新しい時代に繋ぐコミュニティを作っていく、つまり、今までの人達だけでつくる自治区ではなく、若い人達や問題意識のある人達に入ってもらい、将来に向かって地域のことを地域で考えるようにするわけです。津久井町・相模湖町は、それぞれに特徴があつていいのですが、より未来志向型の自治区にしていきたいのです。現相模原市内においても、未来志向のコミュニティを形成するこ



小川市長

とを目指し、時間をかけて取り組んでいきたいと考えています。まちづくりは長い年月がかかりますし、その間にも新たな問題が生まれていくわけで、常に努力をし続けていかなければなりません。

**柴田** 生活圏が違うということでバラバラなまちづくりをしていくのではなく、相模原市全体を大きなコミュニティとして捉え、それぞれの地域を小さなコミュニティとして捉えると言う点に青年会議所の活動の方向性があるのかと思います。相模原市の特色として相模原市はヘソの無い街と言われていますが、政令市を目指すというひとつの過程の中で、まちづくりの一環として何かを創り上げていくことに、これからの相模原青年会議所としての挑戦できるところがあるように感じます。



## 地域レベルの国際交流について

**柴田** 私どもは先日、中国無錫市に行っていました。向こうに行くとアジアの中の日本という意識を強く持ちます。これからはアジアとの連携がとても大切です。無錫に行ったときに有り難かったのは、相模原市が20年も前から無錫市と交流を続けていたことが中国の中央政府から高い評価を得ていたことです。中国の報告も兼ねて井口理事長から国際交流の展望についてのお話をお願いいたします。

**井口** 今年、日本青年会議所は、中華全国青年聯合会との交流20周年を迎え、多くのメンバーで訪中団を組みました。その中で地方都市の青年団体との友好促進を目的に、私たち相模原青年会議所は、相模原市と無錫市の友好関係をベースに、無錫市青年聯



柴田正隆直前理事長

合会と友好関係構築に向けた合意書を締結いたしました。この中国の青年団体との交流はこれからのことですが、既に相模原青年会議所は、韓国釜山海雲台青年会議所と姉妹青年会議所の関係にありまして、活発に行き来をしています。日本と中国、韓国の各地方3都市のトライアングルを活用して、何かできないかなというイメージをつくりはじめています。

**柴田** 市長は地方都市としての国際交流のあり方や青年団体としての交流に何かお考えをお持ちですか。

**市長** これからの中心となる若い人達ですから、日本・中国・韓国の3つの国の青年団体の交流はとても大切であると考えています。若者らしい発想で、地方発の良い関係を目指して活動して欲しいと期待しています。

**柴田** 草の根運動的な国際交流はとても大事になっていくと思いますが、その土壌を20年前から相模原市は作ってくれました。釜山海雲台青年会議所との交流は先輩が築いてくれていましたが、鈴木次年度理事長にはこれからどんな国際交流をしていきたいかについて伺いたいと思います。

**鈴木** 今回、相模原青年会議所が友好調印をできたのは、相模原市と無錫市との交流が大きなポイントでした。中国では、我々以上に若い人達が素晴らしい活動をしていて、そんな触れあいが私たちに大きなパワーを与えてくれました。私たちの次の世代にも視野を広げていただきたいと思っていますので、青年会議所が何かきっかけを提供できるように取り組んでいきたいと考えています。



## 青少年問題について

**柴田** 相模原青年会議所としても小学生、中学生、大人のそれぞれを対象とした取り組みをしてきましたが、相模原市は全国的に見ても青少年犯罪が多いのが現状です。井口理事長は相模原青年会議所として青少年の育成についてどのようにお考えですか。

**井口** 今まで相模原青年会議所が向き合ってきたのは、比較的円満な家庭の子どもたちであったと思います。そうでない環境にいる子どもたちとどう向き合っていくかは、今後の重要な課題です。現状を少し分析すると、現代では、子どもだけのコミュニティがなくなってしまっていて、ちょっと暴力や喧嘩があると大人が出てきてしまいます。子どもの社会が大人に侵されているというか、やや不健全な印象を感じます。



第40代理事長 井口 学



鈴木高広次年度理事長予定者

青年会議所としては、地域の中での子どもの位置付けについて提案することも必要かもしれません。

**市長** 「芋洗い」という言葉があります。芋が互いに擦れ合ってきれいに洗われる。そんなことが地域での子育ての基本のような感じがします。子ども達はこれから世の中を生きていくわけですから、ある程度の摩擦の中を生きていけるようにならなければなりません。

**柴田** 子どもたちが無菌状態の中で育てられている感がありますね。青年会議所としても責任ある大人として何ができるか模索していますが、学校や行政ではなく、市民団体である青年会議所が行えるな取り組みなどについてお話を伺えますか。

**市長** 難しい質問ですが、子どもにとって異年齢の子どもとの付き合いは貴重な経験になります。ですから、スポーツなどはいいと思いますね。市としては合併したら津久井の自然を利用したキャンプや自然との共生など様々な体験をできるように取り組んでいきたいですね。

**柴田** 青年会議所は今まで青少年問題に関して一日のみの事業を行ってきましたが、市長のお話で今後のヒントがあるように思えます。

**井口** 子どもだけのコミュニティを感じてもらう、子どもたちにも上下関係の大切さを感じてもらうために、先ず簡単にできることは学校への集団登下校だと思っています。学校にも友達がいる、地域にも友達がいる、上級生が下級生を守る、下級生は上級生を敬う、そして、なおかつ防犯にも役立つなど様々なメリットがあります。

**市長** そうですね。そういったことが大切ですね。

**柴田** それでは、最後に理事長から今年40周年を迎えてのお言葉と次年度理事長から来年度以降の意気込

みを語っていただくとともに、市長から青年会議所に対する期待などをお話いただきたいと思います。

**市長** 青年会議所は、以前は限られた一部の人達でやっていた印象がありますが、最近はいろいろな市民との交流が生まれてきていて、素晴らしいことだと思います。更にこれからまちづくりに自信をもって取り組んでいていただきたいと思います。市民の方にも青年会議所活動というものが少しずつ認められてきているようです。これからの活動に期待しています。

**井口** 今年のスローガンは「地域のために 人のために 未来のために We Do Next Challenge」としていますが、市長が仰ったように青年会議所はサロンであってはいけないし、自分たちだけの研修のために存在するのでもいけない。地域にあって地域のために活動することでいろいろ勉強し、そして更に活動に活かしていく団体でなければいけません。そのことを念頭に活動に取り組んでいきたいと思っています。

**鈴木** 先ほど市長の言葉に「芋洗い」とありましたが、まさしく青年会議所も「芋洗い」で、いろいろな市民団体の中で活動し、磨かれ、よりよいものを創っていかねばいけません。そのような中でしっかりとまちづくりに取り組んで、地域の活動をわかってもらえるよう努力し、検証を重ねてさらなる進化をさせていきたいと思っています。

**柴田** 本日は誠に有り難うございました。市長のお話の中に来年度以降の活動のヒントをたくさんいただきました。今後の相模原青年会議所の活動に生かし、地域に貢献できますよう頑張っておりますので、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。有意義な時間を有り難うございました。

## 創立40周年記念 座談会

Part 3

# 出向者座談会

日時：2005年9月17日（水）

場所：とん平

出席者：中村宣勝第14代神奈川ブロック協議会会長 秋石圭一1984年度日本JG関東研修委員長  
伊藤信吾第36代神奈川ブロック協議会会長 鈴木高広次年度理事長予定者  
井口学理事長（コーディネーター）



**理事長** 本日はお忙しい中にご出席いただきまして誠に有り難うございます。今回は主に出向で活躍されました先輩にお声掛け致しまして、出向時代のエピソードなどを交えつつ出向の魅力や意義などを若手メンバーに伝えたいということが目的です。最後までよろしくお願い致します。まず第14代神奈川ブロック会長を務められました中村先輩から出向での主な事業内容や思い出などお聞かせ下さい。

**中村** ブロックへの出向では、最初は監事から始まり翌年副会長、監事と務めそして第14代ブロック会長を務めました。当時はブロックに約1600名のメンバーがいて「神奈川は1つ」を合い言葉に「大神奈川LOM」的発想でいくつか事業をしました。日本の地方自治の要である県単位に目を向けて、ここにもひとつのJC運動を行おうという目的でした。また横浜を中心とした国際県・神奈川の推進運動も行いました。

**理事長** 続きまして秋石先輩ですが、日本青年会議所委員長時代の事業内容やエピソードをお願いできますか。

**秋石** 私は、日本青年会議所研修室の担当研修委員長でした。研修委員会というのはもともとは青年の船から分かれたのだと思いますが、今では日本青年会議所に研修委員会がないと思うとバツと咲いてバツとなくなったような気がします。確か私がやって次の次くらいで無くなったと思いました。委員会には副委員長が5名いて、その副委員長の下に20から25名くらいメンバーがいます。前年度の9月くらいから立川・茨城・群馬・千葉・東京と5つのところを回って委員会を行いました。集大成は横浜から研修船に乗りまして北海道の釧路・根室に行き北方領土返還運動の何周年かに合わせて行ってきたこと

です。委員会では当時、東大の木村太郎さんをお呼びして政治や経済について講義を受けました。また群馬で行った会議では元総理大臣の福田赳夫さんを講師にお招きしました。その時は大変な警備で地元の信号に警察官が立っていました。何時何分に終わってというスケジュールで、警察は警備をしているのですが、福田さんはお話の時間を少しオーバーしてしまって大騒ぎになりました。少しぐらいいいじゃないかと思いましたが、警察の方では一人ひとりを信号に立たせているのだから早く終わらせてくれといわれました。そういえば、当時福田さんは総理大臣を終えてすぐの頃で、国際情勢の話の中でアジアと仲良くしようという話をされていましたが、今は逆の方向に進んでしまっているような気がします。今思えば先見の目があったのだと思います。また何度か出席100%委員会を目指しまして2度達成できました。当時100%委員会ができたのはうちの委員会だけで、当時の野津日本JC会頭に褒められたことがいい思い出です。

**理事長** 委員会に120名もいたのですか。

**秋石** そうですね。筑波でやった会議では神奈川ブロックとも一緒に行動し、オブザーバーも含めると218名にもなりました。亡くなった内田君と根本君と会場に入っていったら人数がやけに多いのでドキドキしたものです。

**理事長** 続きまして伊藤先輩お願いします。伊藤先輩は卒業されてから日にちがあまり経っていませんので主な事業などをお願い致します。

**伊藤** 私は2002年に理事長を務めた後、思いがけないところから会長職となりまして副会長をやっていたので運営に心を砕いた一年でした。当初他LOMから「本当に相模原でできるのか」と心配

されましたので意地になりました。理事長、事務局とも全く手探りで予定者から始まってほぼ完璧に一年を乗り切って次の会長に繋げることができたと思っています。

**理事長** 事業内容についてお話いただけるでしょうか。

**伊藤** 「心のネットワーク-21の新しい風」をスローガンに、県内各地の公設民営の市民活動サポートセンターとの連携を取ってさまざまな事業を行いました。サマーコンファレンスではNPOとの協同事業を行い、地域主権型社会を目指すJCの方向性を確認するためにと都市内分権を核とする提言書を作成しました。会員大会では松沢知事をお呼びして私も参加して地域主権型社会のパネルディスカッションをしたことが一番の思い出です。あの時、多くの出向者を出してブロックが楽しいということが今に繋がっていると思うと思い切って会長をうけて良かったと思っています。

**秋石** 中村さんが当時ブロック会長の時、私がLOMの理事長でよく神奈川は一枚岩と言っていました。そんな伝統がありまして伊藤君が副会長をやっているなくても会長を務めることができたのではないのでしょうか。

**理事長** LOMの中の雰囲気づくりで言えば、出向をしてその中でも役職を取っていくと、その一年は大変ですが頑張った翌年にLOMが伸びるという実感があります。先輩方が出向された時にはLOMの中ではどのような雰囲気だったのでしょうか。

**中村** 相模原では古藤さんが一番最初に出向されました。それから宮崎さんのあたりから相模原も少し出向していこうという気運になっていまして、私はたまたま若くて理事長になったものですから皆さんに協力してもらってブロック会長を務めることができました。ただ出向にもいろいろありまして、LOMの意向以上によそのLOMから1本釣りでも引張られることもあります。それで失敗したLOMも随分ありました。ですから同じ出るのであればLOM全員が合意、理事会の承認のもとに出なければならぬと思います。その上で大いによそに出る行って和を広げていただきたいですね。

**秋石** 私の場合は3年ほどブロックに出向しました。理事会で行けと言われて本当は嫌でしたが。

**理事長** 日本青年会議所に行くときはLOMは盛り上がり上がっていたのでしょうか。

**秋石** 最初、青年の船という事業に参加しました。

訳もわからず行ったのですが、楽しかったですね。同行した人の中から鴻池さんや斎藤さん、麻生さんからその後の日本青年会議所会頭が次々でまして、その時知り合いました。その時の会頭はほとんど相模原に講演に来ていただきました。なんとかパイプをつくらなきゃいけないと思って必死でした。出向先で名刺を出しても相模原なんて誰も知らないような状況でしたから。監事を2回やって、それから委員長をやりました。LOMの底力がある今の相模原だったら、伊藤君をはじめブロック長はこれからどんどん出せるんじゃないでしょうか。いい人材を送り込んで、LOMのみんながバックアップしてあげることが大事なんです。私も中村さんも理事長をやった年齢が若くて私が31、中村さんが30歳でしたから、この2人は関東ブロック、日本JCまで出そうという雰囲気はLOM内にありました。だから出向する方も必死ですよ。理事長終わって出向先で役職をとってこなきゃ、9年もあってみともないですから。

**井口** 最近では03年に伊藤先輩がブロック長をやられてから、LOMに底力が付いてきて、正副委員会でも若い世代が中心になってきています。40歳で理事長をやるのは、恐らく私が最後で卒業まで何年か残して理事長をやる流れができています。

**秋石** 伊藤君がブロック長をやったのはもちろん彼の能力もあるけれど、そういった流れに後押しされたというのものもあるんじゃないかな。

**中村** あとは着実に可能性がある人材を出向させて、LOM全体が応援する体制を整えることが重要です。LOMがひとつじゃないと、出向者が途中で頓挫してしまったりする可能性もあるわけです。LOMさえしっかりしていれば病気でもない限りま



中村先輩（右奥） 秋石先輩（右手前）

っとうできますから、LOMがひとつかどうかが一番の基準なんです。だからLOMがひとつにまとまって、きちんとやっているというのを外に見せられれば絶対に可能性はあります。

井 口 まずはLOMをひとつにまとめあげた上で出向していくと。その流れでいえば、伊藤さんは生みの苦しみがあったと思うのですが。

伊 藤 ブロックはきつとみなさん様子や人もわかっているから、ブロック長はやっていきなと思うのですが、日本JCの役職が課題でしょうね。相模原JCも全国で約20番目のメンバー数のLOMになったというのであれば、当然、日本の役職もとっていきなはずで、それこそ常任を何年に1回は出せるぐらいの勢いをもちつつあると思っているのですが、秋石さんが出られて以来、日本の委員長を出していない。これから出していくにあたって、日本の役職はLOMにどれ位の負担がかかるのか様子もわからないし、不安感があると思うのですが、みんなでやってみればわかりますから。ぜひ挑戦して欲しいと思います。

秋 石 当時、私の時代は日本への出向希望者が多くて「一本釣り」と「地区の推薦」と両方がなければならなかったんです。「一本釣り」というのは上の役職の人がいい人材をピックアップすることで、地区の推薦だけでなく、この一本釣りの方も強くないとだめなんです。私の場合はなればいいやと研修一筋で希望していたんですが、もしかしたら違う委員会に回されるかもしれないと言われていました。結局、研修に配属されたのですが、後で聞いた話では、本当は研修の委員長は横浜JCの方でほぼ決まっていたそうなんです。しかし会頭が研修の委員長を横浜から相模原にかえろと言ったそうで、横浜から私にかえろというのは当時異例のことだったようです。

井 口 LOM内では今、理事長をやる前に日本の副委員長などを経験していこうという流れをつくっているところなんです。また一方でブロックの方でも存在感を示していくというのが、今後の相模原の課題だと思っています。それでは最後に、現役メンバーに出向に対するメッセージを頂ければと思います。

伊 藤 LOMも出向も両方JC活動だということに違いはありませんが、ちょっと違ったJC活動を体験したいという方は自分のためにもLOMのためにもぜひ出向して欲しいと思います。また、ここ数年で若いメンバーが増えていると聞いていますので、出

向の楽しさを相模原の伝統として伝えていって欲しいと思います。

秋 石 JC活動の基本は家庭や家業、そしてLOMがあって最後に出向です。出向先では委員会に出席するのにLOMには出席しないという人もいます。しかし基本はLOMであって、それを履き違えてしまうと本末転倒です。また出向者を大事にしてあげて欲しいと思います。出向者が活動報告を発表する時間を積極的に設けるなどして欲しいですね。あとは出向すると経済的負担も大きくなりますので、多少でも出向費をLOMから出すなどの支援も必要です。何度も言いますが基本はLOMです。それを忘れると出向しても長続きしません。

中 村 出向すると人脈が広がりますし、いい経験にもなりますので積極的に挑戦して欲しいと思います。また組織運営で重要なことはリーダーには魅力、運動にはリズムです。それはLOMも日本JCの活動でも商売でも同じです。新入会員が多いと聞いていますが、よいリーダーの下で最初に面白いJC活動をした人は長続きしますが、最初から面白くないJCをやらされたら長続きしません。リーダーはそれを頭において活動して欲しいですね。



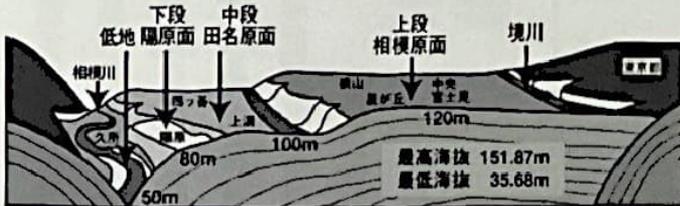
伊藤先輩（中央） 井口理事長（左手前）

# 相模原市の現況

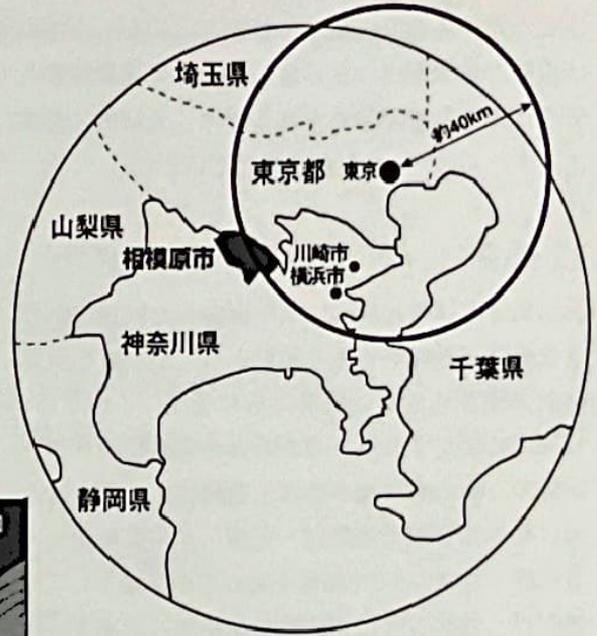
神奈川県北部に位置する相模原市は、西に丹沢の山々を望める相模川の左岸に細長く広がる相模原台地の北半分を占めています。また、東京都心部から約40キロという好立地にあるため、内陸工業都市として急速な発展を遂げるとともに市全域に住宅地が広がり、人口は約62万人に達しています。このような状況から03年4月には、政令指定都市（神奈川県では横浜市、川崎市）に準ずる事務権限を与えられる中核市に移行しており、06年3月20日に津久井、相模湖両町と合併する予定になっています。

## ..... 地 勢 .....

箱根の山々や富士山の噴火による火山灰が堆積してできた相模原台地は、相模川左岸に沿って上段から相模原段丘、田名原段丘、陽原段丘の3つの段丘に分かれており、なだらかな階段状になっているのが特徴です。1941年に2町6村が合併し、相模原町が誕生した際の面積は108.71平方キロメートルでしたが、その後48年に座間町（当時）が分離し、現在に至っています。



相模川左岸に広がる相模原台地。箱根や古富士などの噴火による火山灰がたい積してできたもので、木々の茂る段丘崖によって3段に区切られる。

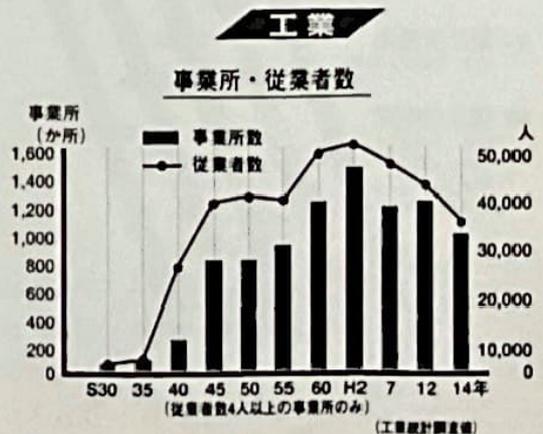


## ..... 産 業 .....

### 1、工業

相模原市は1954年に工場誘致条例を制定し、さらに56年には都市計画法に基づく工業地域の指定を受けました。この結果、相次ぐ大企業の進出があり、それに伴って関連した中小企業も続々と市内で開業し、現在では全国でも有数の工業都市になっています。

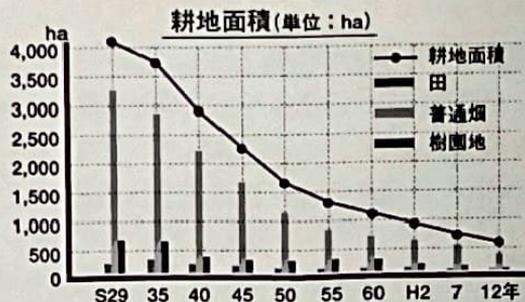
また、海外への生産拠点移転などによる産業空洞化に対処し、技術革新による地域活性化を図るため、1992年に財相模原市産業振興財団、1999年にインキュベーション（事業化支援）施設の（株）さがみはら産業創造センター（SIC）が設立され、新たな産業集積に向けた取り組みも活発化しています。



## 2、農業

相模原市の農業生産高は30億4883万円（2000年度）で、このうち芋類・野菜類が約40%で、残りの58%を牛肉・豚肉・鶏卵などの畜産が占めています。近年、都市化の影響や農業従事者の高齢化などのため、相模原市の農業を取り巻く環境は厳しい状況にあり、農家戸数や従事者数、耕作面積の減少といった問題が生じています。ただ、大消費地に立地するという優位性や市民の間でも農業従事志向が強まっており、2003年には新都市農業創出特区の認定を受けて異業種参入でダチョウ肉の生産が始められるなど、地域的に農業に対するポテンシャルは高いとされています。

### 農業

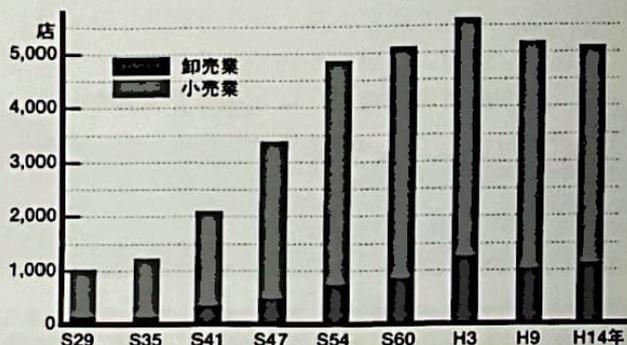


## 3、商業

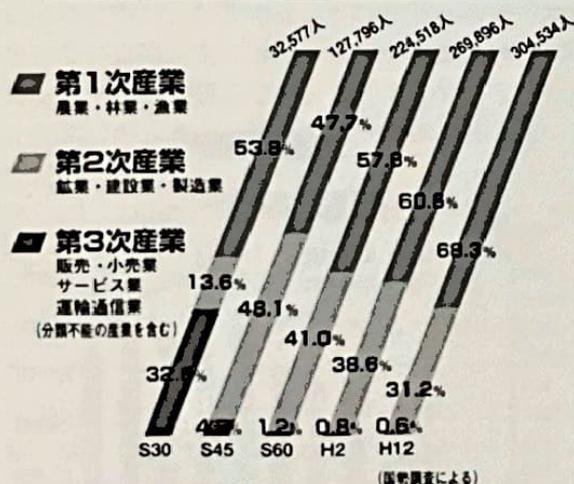
相模原市は町村合併により誕生した歴史的な背景や鉄道が外縁部を走る地形から、中心的な商業地が形成されにくい環境にあります。このため、1996年に策定された「さがみはら産業振興ビジョン」で、中心商業地の橋本・相模原・相模大野と地区中心商業地の淵野辺・上溝・小田急相模原・東林間・古淵の合計8地区を拠点的商业地として位置づけ、地区ごとに個性的な商業地の形成を目指すとともに、商業機能の集積を図っています。

### 商業

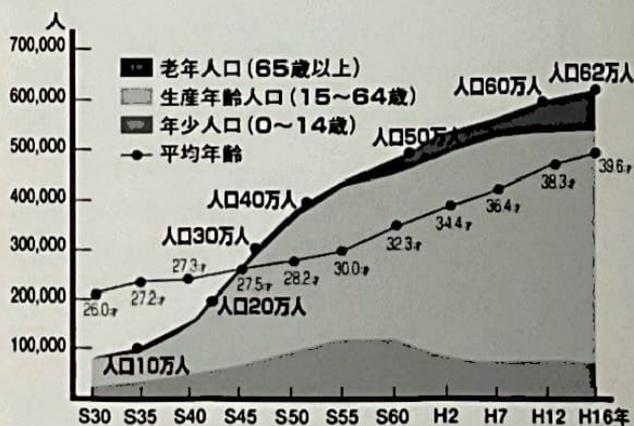
商店数(卸売業・小売業)



産業別就業者の割合と推移



年齢3区分別人口の推移



相模原市提供

## ご挨拶

40周年実行委員会

委員長 鈴木 高広

本年、社団法人相模原青年会議所は、多くの行政、市民団体の皆様、神奈川県内の20青年会議所及び近隣の社団法人町田青年会議所、多摩青年会議所の多くのまちづくりメンバーの友人達、そして創立から相模原市の発展に寄与されました先輩諸氏の皆様に支えられ、創立40周年を迎えることが出来ました。あらためて御礼申し上げます。

年当初に40周年実行委員会として、「錦上添花」というスローガンを掲げさせていただきました。これは、素晴らしいものに花を添えてさらに素晴らしくするという意味です。39年間の社団法人相模原青年会議所の素晴らしい活動に対して、一歩でも前進し、さらに素晴らしい活動に繋げていくという想いからスローガンとして「錦上添花」にいたしました。

2月に多くの皆様にご臨席の栄を賜り、盛大な記念式典を開催させていただきました。また、記念事業として7月に夜回り先生こと水谷先生をお呼びしての青少年事業、9月には、地域の皆様と共に環境を考えた地域事業を開催させていただきました。そして、この度40周年の記念事業の集大成となります記念誌を発行させていただきました。先輩の皆様にご協力を頂き、過去40年間を丁寧振り返り、今後の社団法人相模原青年会議所メンバーに対してバイブル的な一冊になることを考え作成いたしました。

この記念となる年に、40周年実行委員会委員長の大役を仰せつかり、多くのメンバーと共に、この一年間活動できましたこと、またご指導ご鞭撻をいただきました関係各位の皆様には本当に改めて御礼申し上げます。

## 40周年記念誌発刊にあたって

40周年実行委員会

顧問 篠崎 栄治

本年、社団法人相模原青年会議所は、40周年を迎える事が出来ました。これも一重に当青年会議所の活動をご理解の上、ご支援頂きました皆様のおかげと心より感謝申し上げます。

40周年記念誌は、当青年会議所の生い立ちとして創立時より30年目までの活動内容とその時代の社会情勢を照らし合わせた記録を編集し、また、31年目からの10年間はLOMスローガンや組織内容と地域に根ざした事業を再度振り返り、先輩諸氏の「明るい豊かな社会の実現」を目指した活動に敬意を表しつつ、今後の青年会議所活動に更なる前進へと繋げていける様な記念誌を発刊させていただきました。

また、過去の事業を見つめ直す事で、先輩諸氏と共に、青年会議所の活動精神を奮い立たせ地域活動や友情を培っていければと思います。

相模原青年会議所は、これからも地域に根ざした活動を行って行く所存であります、今後とも、皆様のご指導ご鞭撻いただきますようお願い申し上げます。

最後に、40周年記念誌発刊にあたりまして、御協力頂きました皆様、厚く御礼申し上げます。

### (社) 相模原青年会議所 40周年記念誌「We Do Next Challenge」

発行日 2005年12月1日

発行責任者 井口 学

発行 社団法人相模原青年会議所

〒229-0039 相模原市中央3-12-3 (商工会館内)

TEL 042-753-1315 FAX 042-753-7637

編集 記念誌編集委員会

野田英樹 川合靖一 本橋幸玄 佐々木亮一 中川敏行 坂野孝信 長友克洋 永松孝浩 稲葉俊明

蓮池祐介 阿部善之 甲斐義憲 佐藤強志 大坪征弘 森 義治

印刷 (株) 相模プリント

社団法人 相模原青年会議所



